

享保版假名神代紀について(一) : 解題及び上巻翻 字

著者	杉浦 克己
雑誌名	放送大学研究年報
巻	11
ページ	210(43)-182(71)
発行年	1994-03-30
URL	http://id.nii.ac.jp/1146/00007327/

享保版假名神代紀について (一)

—— 解題及び上巻翻字 ——

*1) 杉浦克己

漢文文献を漢字仮名混じりまたは仮名書きの和文にした資料については、国語学の方面でも、例えば漢籍では片山晴賢・木村晟両氏の『かながき論語』¹⁾ についてのご研究、¹⁾ 仏典では中田祝夫博士の『假名書き法華経』『假名書き浄土三部経』諸本についての一連のご研究²⁾ があった、これが、該当漢文文献の受容という観点のみならず、漢文訓読の歴史的な変遷を考えうる上でも重要な資料であることが明らかにされつつある。

日本書紀については『仮名日本紀』と呼ばれる文献の名が古くから諸書に見え、この実態をめぐっては、古来これを『古事記』に比定する説、『日本書紀』に先行する和文の史書とみなす説など様々な議論が成されてきた。³⁾ しかし先に述べた漢籍・仏典の例と同様に『仮名日本紀』或いは類似の名を冠する諸本は、『日本書紀』を和文に書き下した、或いはそれに類する

ものであって、橋本進吉博士の東京大学本についてのご論考⁴⁾ を始めいくつかの仮名日本紀についての先学のご説があつて、『日本書紀』の受容或いはその訓読の歴史を考える上での重要な資料と位置づけるべきものであるとの見方が一般的である。

私も先に神代上下巻の本文部分を訓点付きの漢文で、一書部分を漢字かな混じりの和文で記した江戸時代末の写本の一つを以前に紹介したが、⁵⁾ 今回取り上げた『享保版假名神代紀』は、これとは違って全文を仮名のみで和文に書き下したものである。

従来この種のいわゆる仮名日本紀の本文やそれと日本書紀諸本の訓読との関係などが取り上げられたことは管見の限りあまりなかったように思う。特に本書の訓読は一瞥しただけでも、他書とは異なると思われる所を多く存し、日本書紀の訓読の変

*1) 放送大学助教授 (人間の探究)

遷や漢文訓読一般との関わり、また日本書紀の解釈や受容といった観点からも興味深い点が多い。

そこで、今回『享保版假名神代紀』の一本が架蔵に帰することとなり、また類似の数本について詳細に調査する機会に恵まれたことと併せ、先ず基礎調査の完了した享保版上巻の全文の翻字を紹介することとした。

注

- (1) 片山晴賢・木村 晟『かながき論語』本文と索引―本文編―
『北海道駒沢大学研究紀要』昭和五六年
- (2) 『足利本假名書き法華経・影印篇・索引篇・翻字篇』昭和四九・五一・五二年 勉誠社
『妙一記念館本假名書き法華経・影印篇上巻・同下巻・翻字篇・索引篇』昭和六二・六三・平成元・二年 霊友会
『知恩院本假名書き観無量寿経 影印と研究』平成三年 勉誠社
及びこれらに関する訓点語学会での一連の研究発表など
例えば、富山民蔵『語構成から見た日本書紀・古事記の語・語彙の比較研究上・下』昭和五八年 風間書房 などこの論議のいきさつが見える。
- (3) 橋本進吉『東京文科大學國語研究室所蔵の假名日本紀に就いて』
『史學雜誌』第二十六編7号・大正四年七月、後に加筆訂正して
『傳記・典籍研究』昭和四七年 岩波書店に所収
- (4) 杉浦克己『田嶋本神代紀について』東京都立久留米西高等学校
紀要第二号 平成二年
- (5)

享保版假名神代紀 翻字(上巻)

以下は、架蔵の享保版假名神代紀上下二巻のうち、上巻についての翻字である。

本書は上下二巻、美濃判袋綴、墨付き上巻六十八丁・下巻六十九丁、一面八行詰め、下巻末尾に享保四年の刊記を持つ版本で、両巻の表紙に「神代巻」の題箋を、本文冒頭及び末尾に「やまとぶみまきのついでひとつ(ふたつ)」の内題を持つ。

本文は日本書紀神代巻の全文を平仮名書きに書き下したもので、仮名書きの右傍に書紀本文の漢字を注記する。ただし訓注部分のみは訓点付きの漢文で割書きにし、平仮名で訓みを振っている。

仮名書きの本文は、ほぼ日本書紀の漢文本文を忠実に訓読したものとみなし得るが、流布本である『寛文九年版本』や他の神代巻諸本の訓点から帰納的に得られる書き下し文とは異なると思われる部分もあり、日本書紀の訓読を考える上でも重要な資料となりうるものと思われる。この考察の基礎とすべく以下のような要領で翻字を作成した。

なお参考のために本書上巻冒頭と下巻末尾の各一面を約五分の二に縮小して図一・二に示した。

〈凡例〉

・仮名書きの本文と訓注部分を、底本の行詰めのままに翻字し

日本書紀卷第廿一
 神代上
 古天地未判陰陽不分
 いふわあはけらふいもまらわはけらめぞわらけづるを記す
 うけふてこどもこのれこどもこどもこどもこどもこどもこども
 及其清陽者薄靡而為
 たりそのまみわきらうかふのいさあひいてはわ
 なるれくぬれかものいけいてはらくちかふを
 天重濁者流澤而為地
 んでふいそぬあふがあははあきあきくわすくわす
 酒之凝凝場難故天先成酒
 ぬれあふころもころはくはゆりゆりうけわめまわたり

図一 上巻第一丁表

た。なお仮名本文右傍に記された漢文部分は省略した。
 ・底本の丁数及び表裏をへゝに入れてへ一表の如くに示した。
 ・本文の行詰めを①〜⑧の数字を行頭に付すること示した。
 ・底本の仮名遣いや濁点もそのままに示した。
 ・底本には句読点として圈点(○)が用いられているが、このうち、文字の下中に付されたものを読点とみなして「」で、

日本書紀卷第廿二
 神代下
 一音日先生彦五子命
 あつたよいもまらひとせのこもは
 けらりつなれいもひとちをみのとほ
 はふいとらむいりえこはふえけり
 めんこと
 京都 辻 勘重郎
 野田 彌兵衛
 江戸石町 拾野市 同 太兵衛
 享保四己亥年夏五月吉旦

図二 下巻第六十九丁(終丁)裏

下右に付されたものを句点とみなして「」で翻字した。但し、
 底本の圈点の位置の使い分けは必ずしも一定してはいない。
 ・底本には「たま(ふ)」の表記に「玉(ふ)」が用いられている部分があるが、これもそのまま「玉」字で記した。
 ・底本で二行割書きになっている部分は「」に入れて示した。
 割書きの行換え部分は/で示した。

△一表△

- ① やまとふみまきのついでひとつ
 ② かみよのかみ
 ③ いにしへ、あめつちいまだわかれず、めをわかれざるとき、まろ
 ④ かれたることりのこのごとく、くもりてきざしをふく、
 ⑤ めり。そのすみあきらかなるものは、たなびいてあめと
 ⑥ なり、おもくにごれるものは、つゞいてつちとなるにを
 ⑦ よんで。くはしくたへなるがあへるはあふぎやすく、おもく
 ⑧ にごれるがこたるはかたまりがたし。かれあめまづなりて
 △二裏△
 ① つちのちにさだまる、しかうしてのち、かみそのなかにあれ
 ② ます。かれいはく、あめつちひらくるははじめに、くにつちの
 ③ うかれたゞよへること、たとへばなほあそぶうをのみづの
 ④ うへにうけるがごとし。ときにあめつちのなかに、ひとつ
 ⑤ のものなれり、かたちあしがひのことし。すなはちかみとなる、
 ⑥ くにとこたちのみこととまうす。〔至いたつたときをいふ 貴曰これよりあまりをいふ 尊それと 自餘これよりあまりをいふ 曰いふ〕
 命めい 竝ならば 訓なま 美み 學まなぶ 〔等ひと 也なり 下くだ 皆みな 倣まね 此こゝ〕 つぎにくにさづちのみこと、つぎにとよくん
 ⑧ ぬのみこと、すべてみはしらのかみまます。あめのみちひとり
 △一表△
 ① なる、このゆゑにこのをとこのかぎりをなせり
 ② あるふみにいはく、あめつちはじまるときに、ひとつもの
 ③ そらのなかなになれり、かたちいひがたし。そのなかに、お
 ④ のづからなりいづるかみまます。くにとこたちのみこと
 ⑤ とまうす。またくにそこたちのみこととまうす、つぎに
 ⑥ くにさづちのみこと、またはくにさだちのみこととま

- ⑦ うす、つぎにとよくにぬしのみこと、またはとよくみの
 ⑧ みこととまうす。またはとよかふしのゝみこととまうす、
 △二裏△

- ① またはうきふのとよかひのみこととまうす。またはと
 ② よくにのゝみこととまうす。またはとよくひのゝみことと
 ③ まうす。またははこくにのゝみこととまうす。またはみ
 ④ のゝみこととまうす。
 ⑤ あるふみにいはく、いにしへくにいしつちいしるとき、たと
 ⑥ へばなほうかへるあぶらのごとくにしてたゞよへり。とき
 ⑦ にくにのなかにものなれり、かたちあしがひのぬけいで
 ⑧ たるがごとし。これによつてなりいづるかみまます。うまし
 △三表△
 ① あしがひひこちのみこととまうす。つぎにくにとこ
 ② たちのみこと。つぎにくにさづちのみこと。〔葉木國やふきのくに 此云こゝ 二播ふ〕
 ③ 〔舉こゝ 矩爾に 可美かみ 此云こゝ 二于麻時まじ 二〕
 ④ あるふみにいはく、あめつちまろかれなるとき、はじめ
 ⑤ てかみまます。うましあしがひひこちのみこととまうす。
 ⑥ つぎにくにそこたちのみこと。〔彦舅ひこみ 此云こゝ 二比古尼ひこに 二〕
 ⑦ あるふみにいはく、あめつちはじまるときに、はじめて
 ⑧ ともになりいづるかみまます。くにとこたちのみことと
 △三裏△
 ① まうす。つぎにくにさづちのみこと、またいはく、たかまの
 ② はらにあれますかみのみなを、あめみなかぬしのみ
 ③ こととまうす。つぎにたかみむすびのみこと、つぎにかん
 ④ みむすびのみこと。〔皇産靈くわうさんれい 此云こゝ 二武須毘むすび 二〕
 ⑤ あるふみにいはく、あめつちいまだわかれざるとき、たとへば

- ⑥ なほうみのうへにふるゆきの、ねかゝるところなきがこ
 ⑦ とし。そのなかにひとつのものなれり、あしがひのはじめて
 ⑧ ひちのなかにおひたるがごとし。すなはちかみとなる。くに
 〔四表〕
- ① とこたちのみことゝまうす。
 ② あるふみにいはく、あめつちはじまるときにもあり、
 ③ あしがひのごとくにして。そのなかななれり。これによつて
 ④ なるかみを。あまのとこたちのみことゝまうす。つぎに
 ⑤ うましあしがひひごぢのみこと。またものあり。うかへるあふ
 ⑥ らのごとくにして。そのなかななれり。これによつてなる
 ⑦ かみを。くにとこたちのみことゝまうす。
 ⑧ つぎにかみます。うひちにのみこと。〔渥土 此云ニ／宇毘尼〕すひちに
 の
- 〔四裏〕
- ① みこと。〔沙土 此云ニ須毘尼〕 またはうひち／ねのみこと。すひちねの
 みことゝまうす。つぎにかみます
 ② おほとぢのみこと。「あるにいはく／おほととのへ」おほとまべのみこと。
 「または／おほとま」
 ③ 「ひこのみこと。おほとまひめのみことゝまうす。または／おほとむぢ
 のみこと。おほとむべのみことゝまうす。つぎにかみます。おも
 ④ たるのみこと。かしこねのみこと。〔またはあやかしこねのみことゝ／ま
 うす。またはいんかしきのみこ〕
 ⑤ 「とゝまうす。またはあをかしきねのみことゝ／まうす。またはあやか
 ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿ ㏀ ㏁ ㏂ ㏃ ㏄ ㏅ ㏆ ㏇ ㏈ ㏉ ㏊ ㏋ ㏌ ㏍ ㏎ ㏏ ㏐ ㏑ ㏒ ㏓ ㏔ ㏕ ㏖ ㏗ ㏘ ㏙ ㏚ ㏛ ㏜ ㏝ ㏞ ㏟ ㏠ ㏡ ㏢ ㏣ ㏤ ㏥ ㏦ ㏧ ㏨ ㏩ ㏪ ㏫ ㏬ ㏭ ㏮ ㏯ ㏰ ㏱ ㏲ ㏳ ㏴ ㏵ ㏶ ㏷ ㏸ ㏹ ㏺ ㏻ ㏼ ㏽ ㏾ ㏿ 㐀 㐁 㐂 㐃 㐄 㐅 㐆 㐇 㐈 㐉 㐊 㐋 㐌 㐍 㐎 㐏 㐐 㐑 㐒 㐓 㐔 㐕 㐖 㐗 㐘 㐙 㐚 㐛 㐜 㐝 㐞 㐟 㐠 㐡 㐢 㐣 㐤 㐥 㐦 㐧 㐨 㐩 㐪 㐫 㐬 㐭 㐮 㐯 㐰 㐱 㐲 㐳 㐴 㐵 㐶 㐷 㐸 㐹 㐺 㐻 㐼 㐽 㐾 㐿 㑀 㑁 㑂 㑃 㑄 㑅 㑆 㑇 㑈 㑉 㑊 㑋 㑌 㑍 㑎 㑏 㑐 㑑 㑒 㑓 㑔 㑕 㑖 㑗 㑘 㑙 㑚 㑛 㑜 㑝 㑞 㑟 㑠 㑡 㑢 㑣 㑤 㑥 㑦 㑧 㑨 㑩 㑪 㑫 㑬 㑭 㑮 㑯 㑰 㑱 㑲 㑳 㑴 㑵 㑶 㑷 㑸 㑹 㑺 㑻 㑼 㑽 㑾 㑿 㒀 㒁 㒂 㒃 㒄 㒅 㒆 㒇 㒈 㒉 㒊 㒋 㒌 㒍 㒎 㒏 㒐 㒑 㒒 㒓 㒔 㒕 㒖 㒗 㒘 㒙 㒚 㒛 㒜 㒝 㒞 㒟 㒠 㒡 㒢 㒣 㒤 㒥 㒦 㒧 㒨 㒩 㒪 㒫 㒬 㒭 㒮 㒯 㒰 㒱 㒲 㒳 㒴 㒵 㒶 㒷 㒸 㒹 㒺 㒻 㒼 㒽 㒾 㒿 㓀 㓁 㓂 㓃 㓄 㓅 㓆 㓇 㓈 㓉 㓊 㓋 㓌 㓍 㓎 㓏 㓐 㓑 㓒 㓓 㓔 㓕 㓖 㓗 㓘 㓙 㓚 㓛 㓜 㓝 㓞 㓟 㓠 㓡 㓢 㓣 㓤 㓥 㓦 㓧 㓨 㓩 㓪 㓫 㓬 㓭 㓮 㓯 㓰 㓱 㓲 㓳 㓴 㓵 㓶 㓷 㓸 㓹 㓺 㓻 㓼 㓽 㓾 㓿 㔀 㔁 㔂 㔃 㔄 㔅 㔆 㔇 㔈 㔉 㔊 㔋 㔌 㔍 㔎 㔏 㔐 㔑 㔒 㔓 㔔 㔕 㔖 㔗 㔘 㔙 㔚 㔛 㔜 㔝 㔞 㔟 㔠 㔡 㔢 㔣 㔤 㔥 㔦 㔧 㔨 㔩 㔪 㔫 㔬 㔭 㔮 㔯 㔰 㔱 㔲 㔳 㔴 㔵 㔶 㔷 㔸 㔹 㔺 㔻 㔼 㔽 㔾 㔿 㕀 㕁 㕂 㕃 㕄 㕅 㕆 㕇 㕈 㕉 㕊 㕋 㕌 㕍 㕎 㕏 㕐 㕑 㕒 㕓 㕔 㕕 㕖 㕗 㕘 㕙 㕚 㕛 㕜 㕝 㕞 㕟 㕠 㕡 㕢 㕣 㕤 㕥 㕦 㕧 㕨 㕩 㕪 㕫 㕬 㕭 㕮 㕯 㕰 㕱 㕲 㕳 㕴 㕵 㕶 㕷 㕸 㕹 㕺 㕻 㕼 㕽 㕾 㕿 㖀 㖁 㖂 㖃 㖄 㖅 㖆 㖇 㖈 㖉 㖊 㖋 㖌 㖍 㖎 㖏 㖐 㖑 㖒 㖓 㖔 㖕 㖖 㖗 㖘 㖙 㖚 㖛 㖜 㖝 㖞 㖟 㖠 㖡 㖢 㖣 㖤 㖥 㖦 㖧 㖨 㖩 㖪 㖫 㖬 㖭 㖮 㖯 㖰 㖱 㖲 㖳 㖴 㖵 㖶 㖷 㖸 㖹 㖺 㖻 㖼 㖽 㖾 㖿 㗀 㗁 㗂 㗃 㗄 㗅 㗆 㗇 㗈 㗉 㗊 㗋 㗌 㗍 㗎 㗏 㗐 㗑 㗒 㗓 㗔 㗕 㗖 㗗 㗘 㗙 㗚 㗛 㗜 㗝 㗞 㗟 㗠 㗡 㗢 㗣 㗤 㗥 㗦 㗧 㗨 㗩 㗪 㗫 㗬 㗭 㗮 㗯 㗰 㗱 㗲 㗳 㗴 㗵 㗶 㗷 㗸 㗹 㗺 㗻 㗼 㗽 㗾 㗿 㘀 㘁 㘂 㘃 㘄 㘅 㘆 㘇 㘈 㘉 㘊 㘋 㘌 㘍 㘎 㘏 㘐 㘑 㘒 㘓 㘔 㘕 㘖 㘗 㘘 㘙 㘚 㘛 㘜 㘝 㘞 㘟 㘠 㘡 㘢 㘣 㘤 㘥 㘦 㘧 㘨 㘩 㘪 㘫 㘬 㘭 㘮 㘯 㘰 㘱 㘲 㘳 㘴 㘵 㘶 㘷 㘸 㘹 㘺 㘻 㘼 㘽 㘾 㘿 㙀 㙁 㙂 㙃 㙄 㙅 㙆 㙇 㙈 㙉 㙊 㙋 㙌 㙍 㙎 㙏 㙐 㙑 㙒 㙓 㙔 㙕 㙖 㙗 㙘 㙙 㙚 㙛 㙜 㙝 㙞 㙟 㙠 㙡 㙢 㙣 㙤 㙥 㙦 㙧 㙨 㙩 㙪 㙫 㙬 㙭 㙮 㙯 㙰 㙱 㙲 㙳 㙴 㙵 㙶 㙷 㙸 㙹 㙺 㙻 㙼 㙽 㙾 㙿 㚀 㚁 㚂 㚃 㚄 㚅 㚆 㚇 㚈 㚉 㚊 㚋 㚌 㚍 㚎 㚏 㚐 㚑 㚒 㚓 㚔 㚕 㚖 㚗 㚘 㚙 㚚 㚛 㚜 㚝 㚞 㚟 㚠 㚡 㚢 㚣 㚤 㚥 㚦 㚧 㚨 㚩 㚪 㚫 㚬 㚭 㚮 㚯 㚰 㚱 㚲 㚳 㚴 㚵 㚶 㚷 㚸 㚹 㚺 㚻 㚼 㚽 㚾 㚿 㜀 㜁 㜂 㜃 㜄 㜅 㜆 㜇 㜈 㜉 㜊 㜋 㜌 㜍 㜎 㜏 㜐 㜑 㜒 㜓 㜔 㜕 㜖 㜗 㜘 㜙 㜚 㜛 㜜 㜝 㜞 㜟 㜠 㜡 㜢 㜣 㜤 㜥 㜦 㜧 㜨 㜩 㜪 㜫 㜬 㜭 㜮 㜯 㜰 㜱 㜲 㜳 㜴 㜵 㜶 㜷 㜸 㜹 㜺 㜻 㜼 㜽 㜾 㜿 㝀 㝁 㝂 㝃 㝄 㝅 㝆 㝇 㝈 㝉 㝊 㝋 㝌 㝍 㝎 㝏 㝐 㝑 㝒 㝓 㝔 㝕 㝖 㝗 㝘 㝙 㝚 㝛 㝜 㝝 㝞 㝟 㝠 㝡 㝢 㝣 㝤 㝥 㝦 㝧 㝨 㝩 㝪 㝫 㝬 㝭 㝮 㝯 㝰 㝱 㝲 㝳 㝴 㝵 㝶 㝷 㝸 㝹 㝺 㝻 㝼 㝽 㝾 㝿 㞀 㞁 㞂 㞃 㞄 㞅 㞆 㞇 㞈 㞉 㞊 㞋 㞌 㞍 㞎 㞏 㞐 㞑 㞒 㞓 㞔 㞕 㞖 㞗 㞘 㞙 㞚 㞛 㞜 㞝 㞞 㞟 㞠 㞡 㞢 㞣 㞤 㞥 㞦 㞧 㞨 㞩 㞪 㞫 㞬 㞭 㞮 㞯 㞰 㞱 㞲 㞳 㞴 㞵 㞶 㞷 㞸 㞹 㞺 㞻 㞼 㞽 㞾 㞿 㟀 㟁 㟂 㟃 㟄 㟅 㟆 㟇 㟈 㟉 㟊 㟋 㟌 㟍 㟎 㟏 㟐 㟑 㟒 㟓 㟔 㟕 㟖 㟗 㟘 㟙 㟚 㟛 㟜 㟝 㟞 㟟 㟠 㟡 㟢 㟣 㟤 㟥 㟦 㟧 㟨 㟩 㟪 㟫 㟬 㟭 㟮 㟯 㟰 㟱 㟲 㟳 㟴 㟵 㟶 㟷 㟸 㟹 㟺 㟻 㟼 㟽 㟾 㟿 㠀 㠁 㠂 㠃 㠄 㠅 㠆 㠇 㠈 㠉 㠊 㠋 㠌 㠍 㠎 㠏 㠐 㠑 㠒 㠓 㠔 㠕 㠖 㠗 㠘 㠙 㠚 㠛 㠜 㠝 㠞 㠟 㠠 㠡 㠢 㠣 㠤 㠥 㠦 㠧 㠨 㠩 㠪 㠫 㠬 㠭 㠮 㠯 㠰 㠱 㠲 㠳 㠴 㠵 㠶 㠷 㠸 㠹 㠺 㠻 㠼 㠽 㠾 㠿 㡀 㡁 㡂 㡃 㡄 㡅 㡆 㡇 㡈 㡉 㡊 㡋 㡌 㡍 㡎 㡏 㡐 㡑 㡒 㡓 㡔 㡕 㡖 㡗 㡘 㡙 㡚 㡛 㡜 㡝 㡞 㡟 㡠 㡡 㡢 㡣 㡤 㡥 㡦 㡧 㡨 㡩 㡪 㡫 㡬 㡭 㡮 㡯 㡰 㡱 㡲 㡳 㡴 㡵 㡶 㡷 㡸 㡹 㡺 㡻 㡼 㡽 㡾 㡿 㢀 㢁 㢂 㢃 㢄 㢅 㢆 㢇 㢈 㢉 㢊 㢋 㢌 㢍 㢎 㢏 㢐 㢑 㢒 㢓 㢔 㢕 㢖 㢗 㢘 㢙 㢚 㢛 㢜 㢝 㢞 㢟 㢠 㢡 㢢 㢣 㢤 㢥 㢦 㢧 㢨 㢩 㢪 㢫 㢬 㢭 㢮 㢯 㢰 㢱 㢲 㢳 㢴 㢵 㢶 㢷 㢸 㢹 㢺 㢻 㢼 㢽 㢾 㢿 㣀 㣁 㣂 㣃 㣄 㣅 㣆 㣇 㣈 㣉 㣊 㣋 㣌 㣍 㣎 㣏 㣐 㣑 㣒 㣓 㣔 㣕 㣖 㣗 㣘 㣙 㣚 㣛 㣜 㣝 㣞 㣟 㣠 㣡 㣢 㣣 㣤 㣥 㣦 㣧 㣨 㣩 㣪 㣫 㣬 㣭 㣮 㣯 㣰 㣱 㣲 㣳 㣴 㣵 㣶 㣷 㣸 㣹 㣺 㣻 㣼 㣽 㣾 㣿 㤀 㤁 㤂 㤃 㤄 㤅 㤆 㤇 㤈 㤉 㤊 㤋 㤌 㤍 㤎 㤏 㤐 㤑 㤒 㤓 㤔 㤕 㤖 㤗 㤘 㤙 㤚 㤛 㤜 㤝 㤞 㤟 㤠 㤡 㤢 㤣 㤤 㤥 㤦 㤧 㤨 㤩 㤪 㤫 㤬 㤭 㤮 㤯 㤰 㤱 㤲 㤳 㤴 㤵 㤶 㤷 㤸 㤹 㤺 㤻 㤼 㤽 㤾 㤿 㥀 㥁 㥂 㥃 㥄 㥅 㥆 㥇 㥈 㥉 㥊 㥋 㥌 㥍 㥎 㥏 㥐 㥑 㥒 㥓 㥔 㥕 㥖 㥗 㥘 㥙 㥚 㥛 㥜 㥝 㥞 㥟 㥠 㥡 㥢 㥣 㥤 㥥 㥦 㥧 㥨 㥩 㥪 㥫 㥬 㥭 㥮 㥯 㥰 㥱 㥲 㥳 㥴 㥵 㥶 㥷 㥸 㥹 㥺 㥻 㥼 㥽 㥾 㥿 㦀 㦁 㦂 㦃 㦄 㦅 㦆 㦇 㦈 㦉 㦊 㦋 㦌 㦍 㦎 㦏 㦐 㦑 㦒 㦓 㦔 㦕 㦖 㦗 㦘 㦙 㦚 㦛 㦜 㦝 㦞 㦟 㦠 㦡 㦢 㦣 㦤 㦥 㦦 㦧 㦨 㦩 㦪 㦫 㦬 㦭 㦮 㦯 㦰 㦱 㦲 㦳 㦴 㦵 㦶 㦷 㦸 㦹 㦺 㦻 㦼 㦽 㦾 㦿 㧀 㧁 㧂 㧃 㧄 㧅 㧆 㧇 㧈 㧉 㧊 㧋 㧌 㧍 㧎 㧏 㧐 㧑 㧒 㧓 㧔 㧕 㧖 㧗 㧘 㧙 㧚 㧛 㧜 㧝 㧞 㧟 㧠 㧡 㧢 㧣 㧤 㧥 㧦 㧧 㧨 㧩 㧪 㧫 㧬 㧭 㧮 㧯 㧰 㧱 㧲 㧳 㧴 㧵 㧶 㧷 㧸 㧹 㧺 㧻 㧼 㧽 㧾 㧿 㨀 㨁 㨂 㨃 㨄 㨅 㨆 㨇 㨈 㨉 㨊 㨋 㨌 㨍 㨎 㨏 㨐 㨑 㨒 㨓 㨔 㨕 㨖 㨗 㨘 㨙 㨚 㨛 㨜 㨝 㨞 㨟 㨠 㨡 㨢 㨣 㨤 㨥 㨦 㨧 㨨 㨩 㨪 㨫 㨬 㨭 㨮 㨯 㨰 㨱 㨲 㨳 㨴 㨵 㨶 㨷 㨸 㨹 㨺 㨻 㨼 㨽 㨾 㨿 㩀 㩁 㩂 㩃 㩄 㩅 㩆 㩇 㩈 㩉 㩊 㩋 㩌 㩍 㩎 㩏 㩐 㩑 㩒 㩓 㩔 㩕 㩖 㩗 㩘 㩙 㩚 㩛 㩜 㩝 㩞 㩟 㩠 㩡 㩢 㩣 㩤 㩥 㩦 㩧 㩨 㩩 㩪 㩫 㩬 㩭 㩮 㩯 㩰 㩱 㩲 㩳 㩴 㩵 㩶 㩷 㩸 㩹 㩺 㩻 㩼 㩽 㩾 㩿 㪀 㪁 㪂 㪃 㪄 㪅 㪆 㪇 㪈 㪉 㪊 㪋 㪌 㪍 㪎 㪏 㪐 㪑 㪒 㪓 㪔 㪕 㪖 㪗 㪘 㪙 㪚 㪛 㪜 㪝 㪞 㪟 㪠 㪡 㪢 㪣 㪤 㪥 㪦 㪧 㪨 㪩 㪪 㪫 㪬 㪭 㪮 㪯 㪰 㪱 㪲 㪳 㪴 㪵 㪶 㪷 㪸 㪹 㪺 㪻 㪼 㪽 㪾 㪿 㫀 㫁 㫂 㫃 㫄 㫅 㫆 㫇 㫈 㫉 㫊 㫋 㫌 㫍 㫎 㫏 㫐 㫑 㫒 㫓 㫔 㫕 㫖 㫗 㫘 㫙 㫚 㫛 㫜 㫝 㫞 㫟 㫠 㫡 㫢 㫣 㫤 㫥 㫦 㫧 㫨 㫩 㫪 㫫 㫬 㫭 㫮 㫯 㫰 㫱 㫲 㫳 㫴 㫵 㫶 㫷 㫸 㫹 㫺 㫻 㫼 㫽 㫾 㫿 㬀 㬁 㬂 㬃 㬄 㬅 㬆 㬇 㬈 㬉 㬊 㬋 㬌 㬍 㬎 㬏 㬐 㬑 㬒 㬓 㬔 㬕 㬖 㬗 㬘 㬙 㬚 㬛 㬜 㬝 㬞 㬟 㬠 㬡 㬢 㬣 㬤 㬥 㬦 㬧 㬨 㬩 㬪 㬫 㬬 㬭 㬮 㬯 㬰 㬱 㬲 㬳 㬴 㬵 㬶 㬷 㬸 㬹 㬺 㬻 㬼 㬽 㬾 㬿 㭀 㭁 㭂 㭃 㭄 㭅 㭆 㭇 㭈 㭉 㭊 㭋 㭌 㭍 㭎 㭏 㭐 㭑 㭒 㭓 㭔 㭕 㭖 㭗 㭘 㭙 㭚 㭛 㭜 㭝 㭞 㭟 㭠 㭡 㭢 㭣 㭤 㭥 㭦 㭧 㭨 㭩 㭪 㭫 㭬 㭭 㭮 㭯 㭰 㭱 㭲 㭳 㭴 㭵 㭶 㭷 㭸 㭹 㭺 㭻 㭼 㭽 㭾 㭿 㮀 㮁 㮂 㮃 㮄 㮅 㮆 㮇 㮈 㮉 㮊 㮋 㮌 㮍 㮎 㮏 㮐 㮑 㮒 㮓 㮔 㮕 㮖 㮗 㮘 㮙 㮚 㮛 㮜 㮝 㮞 㮟 㮠 㮡 㮢 㮣 㮤 㮥 㮦 㮧 㮨 㮩 㮪 㮫 㮬 㮭 㮮 㮯 㮰 㮱 㮲 㮳 㮴 㮵 㮶 㮷 㮸 㮹 㮺 㮻 㮼 㮽 㮾 㮿 㯀 㯁 㯂 㯃 㯄 㯅 㯆 㯇 㯈 㯉 㯊 㯋 㯌 㯍 㯎 㯏 㯐 㯑 㯒 㯓 㯔 㯕 㯖 㯗 㯘 㯙 㯚 㯛 㯜 㯝 㯞 㯟 㯠 㯡 㯢 㯣 㯤 㯥 㯦 㯧 㯨 㯩 㯪 㯫 㯬 㯭 㯮 㯯 㯰 㯱 㯲 㯳 㯴 㯵 㯶 㯷 㯸 㯹 㯺 㯻 㯼 㯽 㯾 㯿 㰀 㰁 㰂 㰃 㰄 㰅 㰆 㰇 㰈 㰉 㰊 㰋 㰌 㰍 㰎 㰏 㰐 㰑 㰒 㰓 㰔 㰕 㰖 㰗 㰘 㰙 㰚 㰛 㰜 㰝 㰞 㰟 㰠 㰡 㰢 㰣 㰤 㰥 㰦 㰧 㰨 㰩 㰪 㰫 㰬 㰭 㰮 㰯 㰰 㰱 㰲 㰳 㰴 㰵 㰶 㰷 㰸 㰹 㰺 㰻 㰼 㰽 㰾 㰿 㱀 㱁 㱂 㱃 㱄 㱅 㱆 㱇 㱈 㱉 㱊 㱋 㱌 㱍 㱎 㱏 㱐 㱑 㱒 㱓 㱔 㱕 㱖 㱗 㱘 㱙 㱚 㱛 㱜 㱝 㱞 㱟 㱠 㱡 㱢 㱣 㱤 㱥 㱦 㱧 㱨 㱩 㱪 㱫 㱬 㱭 㱮 㱯 㱰 㱱 㱲 㱳 㱴 㱵 㱶 㱷 㱸 㱹 㱺 㱻 㱼 㱽 㱾 㱿 㲀 㲁 㲂 㲃 㲄 㲅 㲆 㲇 㲈 㲉 㲊 㲋 㲌 㲍 㲎 㲏 㲐 㲑 㲒 㲓 㲔 㲕 㲖 㲗 㲘 㲙 㲚 㲛 㲜 㲝 㲞 㲟 㲠 㲡 㲢 㲣 㲤 㲥 㲦 㲧 㲨 㲩 㲪 㲫 㲬 㲭 㲮 㲯 㲰 㲱 㲲 㲳 㲴 㲵 㲶 㲷 㲸 㲹 㲺 㲻 㲼 㲽 㲾 㲿 㳀 㳁 㳂 㳃 㳄 㳅 㳆 㳇 㳈 㳉 㳊 㳋 㳌 㳍 㳎 㳏 㳐 㳑 㳒 㳓 㳔 㳕 㳖 㳗 㳘 㳙 㳚 㳛 㳜 㳝 㳞 㳟 㳠 㳡 㳢 㳣 㳤 㳥 㳦 㳧 㳨 㳩 㳪 㳫 㳬 㳭 㳮 㳯 㳰 㳱 㳲 㳳 㳴 㳵 㳶 㳷 㳸 㳹 㳺 㳻 㳼 㳽 㳾 㳿 㴀 㴁 㴂 㴃 㴄 㴅 㴆 㴇 㴈 㴉 㴊 㴋 㴌 㴍 㴎 㴏 㴐 㴑 㴒 㴓 㴔 㴕 㴖 㴗 㴘 㴙 㴚 㴛 㴜 㴝 㴞 㴟 㴠 㴡 㴢 㴣 㴤 㴥 㴦 㴧 㴨 㴩 㴪 㴫 㴬 㴭 㴮 㴯 㴰 㴱 㴲 㴳 㴴 㴵 㴶 㴷 㴸 㴹 㴺 㴻 㴼 㴽 㴾 㴿 㵀 㵁 㵂 㵃 㵄 㵅 㵆 㵇 㵈 㵉 㵊 㵋 㵌 㵍 㵎 㵏 㵐 㵑 㵒 㵓 㵔 㵕 㵖 㵗 㵘 㵙 㵚 㵛 㵜 㵝 㵞 㵟 㵠 㵡 㵢 㵣 㵤 㵥 㵦 㵧 㵨 㵩 㵪 㵫 㵬 㵭 㵮 㵯 㵰 㵱 㵲 㵳 㵴 㵵 㵶 㵷 㵸 㵹 㵺 㵻 㵼 㵽 㵾 㵿 㶀 㶁 㶂 㶃 㶄 㶅 㶆 㶇 㶈 㶉 㶊 㶋 㶌 㶍 㶎 㶏 㶐 㶑 㶒 㶓 㶔 㶕 㶖 㶗 㶘 㶙 㶚 㶛 㶜 㶝 㶞 㶟 㶠 㶡 㶢 㶣 㶤 㶥 㶦 㶧 㶨 㶩 㶪 㶫 㶬 㶭 㶮 㶯 㶰 㶱 㶲 㶳 㶴 㶵 㶶 㶷 㶸 㶹 㶺 㶻 㶼 㶽 㶾 㶿 㷀 㷁 㷂 㷃 㷄 㷅 㷆 㷇 㷈 㷉 㷊 㷋 㷌 㷍 㷎 㷏 㷐 㷑 㷒 㷓 㷔 㷕 㷖 㷗 㷘 㷙 㷚 㷛 㷜 㷝 㷞 㷟 㷠 㷡 㷢 㷣 㷤 㷥 㷦 㷧 㷨 㷩 㷪 㷫 㷬 㷭 㷮 㷯 㷰 㷱 㷲 㷳 㷴 㷵 㷶 㷷 㷸 㷹 㷺 㷻 㷼 㷽 㷾 㷿 㸀 㸁 㸂 㸃 㸄 㸅 㸆 㸇 㸈 㸉 㸊 㸋 㸌 㸍 㸎 㸏 㸐 㸑 㸒 㸓 㸔 㸕 㸖 㸗 㸘 㸙 㸚 㸛 㸜 㸝 㸞 㸟 㸠 㸡 㸢 㸣 㸤 㸥 㸦 㸧 㸨 㸩 㸪 㸫 㸬 㸭 㸮 㸯 㸰 㸱 㸲 㸳 㸴 㸵 㸶 㸷 㸸 㸹 㸺 㸻 㸼 㸽 㸾 㸿 㹀 㹁 㹂 㹃 㹄 㹅 㹆 㹇 㹈 㹉 㹊 㹋 㹌 㹍 㹎 㹏 㹐 㹑 㹒 㹓 㹔 㹕 㹖 㹗 㹘 㹙 㹚 㹛 㹜 㹝 㹞 㹟 㹠 㹡 㹢 㹣 㹤 㹥 㹦 㹧 㹨 㹩 㹪 㹫 㹬 㹭 㹮 㹯 㹰 㹱 㹲 㹳 㹴 㹵 㹶 㹷 㹸 㹹 㹺 㹻 㹼 㹽 㹾 㹿 㺀 㺁 㺂 㺃 㺄 㺅 㺆 㺇 㺈 㺉 㺊 㺋 㺌 㺍 㺎 㺏 㺐 㺑 㺒 㺓 㺔 㺕 㺖 㺗 㺘 㺙 㺚 㺛 㺜 㺝 㺞 㺟 㺠 㺡 㺢 㺣 㺤 㺥 㺦 㺧 㺨 㺩 㺪 㺫 㺬 㺭 㺮 㺯 㺰 㺱 㺲 㺳 㺴 㺵 㺶 㺷 㺸 㺹 㺺 㺻 㺼 㺽 㺾 㺿 㻀 㻁 㻂 㻃 㻄 㻅 㻆 㻇 㻈 㻉 㻊 㻋 㻌 㻍 㻎 㻏 㻐 㻑 㻒 㻓 㻔 㻕 㻖 㻗 㻘 㻙 㻚 㻛 㻜 㻝 㻞 㻟 㻠 㻡 㻢 㻣 㻤 㻥 㻦 㻧 㻨 㻩 㻪 㻫 㻬 㻭 㻮 㻯 㻰 㻱 㻲 㻳 㻴 㻵 㻶 㻷 㻸 㻹 㻺 㻻 㻼 㻽 㻾 㻿 㼀 㼁 㼂 㼃 㼄 㼅 㼆 㼇 㼈 㼉 㼊 㼋 㼌 㼍 㼎 㼏 㼐 㼑 㼒 㼓 㼔 㼕 㼖 㼗 㼘 㼙 㼚 㼛 㼜 㼝 㼞 㼟 㼠 㼡 㼢 㼣 㼤 㼥 㼦 㼧 㼨 㼩 㼪 㼫 㼬 㼭 㼮 㼯 㼰 㼱 㼲 㼳 㼴 㼵 㼶 㼷 㼸 㼹 㼺 㼻 㼼 㼽 㼾 㼿 㽀 㽁 㽂 㽃 㽄 㽅 㽆 㽇 㽈

- ⑥ よてともにをとめとなり。くにつちをうまんとおぼす。
 ⑦ すなはちおのころじまをもて。くにのなかのみはしら
 ⑧ となして。「柱」此云ニ美／美「美」をがみはひだりよりめぐり。めがみ
 は
 〔六裏〕
 ① みぎよりめぐる。くにのみはしらをあかれめぐりて、おな
 ② しくひとつおもてにあひき。ときにめがみ、まづとなへて
 ③ のたま。あなうれしにゑや。うましをとこにあひぬ。「少／少男」
 ④ 「此云ニ鳥／鳥等孤」をがみよろこびずしてのたまはく。あれはこれま
 ⑤ すらをなり。ことわりまさにまづとなふべし。いかんぞた
 ⑥ をやめの。かへつてことさきだつや。ことすでにさがなし。
 ⑦ むべもてあらためめぐるべし。こゝにふたばしらのかみ。
 ⑧ かへつてさらにめぐりあひたまひぬ。このたびは。をがみ
 〔七表〕
 ① まづとなへてのたまはく。あなうれしにゑやうましをと
 ② めにあひぬ。「少女」此云ニ鳥等咩」よてめがみにとひてのたまはく
 ③ いましがみになにのなれるところかあるや。こたへての
 ④ 玉はく。あがみにひとつめのはじめといふところあり。を
 ⑤ がみのゝ玉はく。あがみにまたをのはじめといふところ
 ⑥ あり。あがみのはじめのところをもて。いましがみのはじめ
 ⑦ のところにあはせんとおもふ。こゝにめを、はじめてみとの
 ⑧ まくばひして。をとめとなる。こうむどきにいたるにをよんで。
 〔七裏〕
 ① まづあはぢのしまをもてえとす。みごゝろによるこびざる
 ② ところなり。かれなづけてあはぢのしまといふ。すなはち
 ③ おほやまと「日本」此云ニ耶麻／耶麻「耶麻」下皆效」此」とよあきつしまをう

む。つき

- ④ にいよのふたなのしまをうむ。つきにつくしのしまをうむ。つ
 ⑤ ぎにおきのしまと。さどのしまとを。ふたごにうむ。ひとあるは。
 ⑥ ふたごうむことあるは。これにかたどりてなり。つきにこしの
 ⑦ しまをうむ。つきにおほしまをうむ。つきにきびのこしまを
 ⑧ うむこれにてはじめて。おほやしまのくにのおこれり。すな
 〔八表〕
 ① はちつしまじま。ゆきのしま。をよびとろ／とろのをしまはみ
 ② なこれしほのあわの。こりてなれるものなり。またはみづの
 ③ あわの。こりてなれりともいふ。
 ④ あるふみにいはく。あめのかみ。いざなぎのみこと。いざなみ
 ⑤ のみことにかたつてにたまはく。とよあしはらちいほあき
 ⑥ のみづほのくにあり。よろしくいましゆいてしらすべしと
 ⑦ の玉ひて。すなはちあまのとほこをたまふ。こゝにふた
 ⑧ はしらのかみ。あまのうきはしにたゝして。ほこをさし
 〔八裏〕
 ① おろしてくにをもとむ。よてしほこをろ／ろをろにかき
 ② なして。ひきあぐるとき。すなはちほこのさきよりしたゞる
 ③ しほこりて。しまとなる。なづけて。をのころじまといふ。
 ④ ふたばしらのかみ、かのしまにあまくだりまして。やひろ
 ⑤ のとのをみたつ。またあめのみはしらをみたつ。をがみ、
 ⑥ めがみにとひての玉はく。いましがみになにのなれると
 ⑦ ころかあるや。こたへてのたまはく。あがみになり／りて。
 ⑧ めのはじめといふもの。ひとところあり。をがみののたま
 〔九表〕
 ① はく。あがみにまたなり／りてをのはじめといふものひと、

- ② ころあり。あがみのをのはじめのところをもて。いましが
 ③ みめのはじめのところにあはせんとおもふとしか
 ④ いふ。すなはちまさき。あめのみはしらをめぐらんとして。
 ⑤ ちぎりての玉はく。いろとはひだりよりめぐれ。あれ
 ⑥ はまさきにみぎよりめぐらん。すでにして。はかりめぐ
 ⑦ りてあひ玉ひぬ。めがみすなはちまづとなへての玉
 ⑧ はくあなにゑや、えをとこ。をがみのちにこたへて
 へ九裏
- ① の玉はく。あなにゑや、えおとめ。つひにをとめと
 ② なり。まづひるこをうむ。すなはちあしのふねに
 ③ のせて。はなちやりき。つぎにあはのしまをうむ。これ
 ④ またもてこのかずにいれず。かれかへりて。またあめ
 ⑤ へのぼりまうで。つぶさに。そのありさまをまうし玉ふ。
 ⑥ ときにあめのかみ。ふとまにをもつてうらふ。すなは
 ⑦ ちあぢはひての玉はく。たをやめのこと。それす
 ⑧ でにまづあげたればか。むべさらにかへりいね。すな
 へ十表
- ① はちときひをうらえて。あまくだします。かれふたば
 ② しらのかみ。あらためてまたみはしらをめぐり玉ふ。
 ③ をがみはひだりよりし。めがみはみぎよりして。すで
 ④ にあひ玉ひぬるときに。をがみまづとなへてのたまはく。
 ⑤ あなにゑやえをとめ。めがみのちにこたへての玉はく。
 ⑥ あなにゑやえをとこ。しかうしてのちに。みやをお
 ⑦ なじふしてともにすまゐして。みこをうむ。おほやまと
 ⑧ とよあきつしまとなづく。つぎにあはちのしま。つぎ
 へ十裏

- ① にいよのふたなのしま。つぎにつくしのしま。つぎに
 ② おきのみつこのしま。つぎにさどのしま。つぎにこし
 ③ のしま。つぎにきびのこじま。これによりてこれを
 ④ おほやしまのくにといふ。「瑞此云ニ彌圖妍哉此云ニ阿那而惠夜
 可愛此云」
 ⑤ 「レ哀太占此云ニ布刀磨爾」
 ⑥ あるふみにいはく。いざなぎのみこと。いざなみのみこと。ふ
 ⑦ たばしらのかみ。あまのさぎりのなかにたゝしての玉はく。
 ⑧ あれくにをえんとおもふとの玉ひて。すなはちあまのと
 へ十一表
- ① ぼこをもて。さしくだしてさぐりしかば。おのころじまを
 ② え玉ひき。すなはちぼこをぬきあげてよろこびての玉は
 ③ く。よいかなくにのありけること。
 ④ あるふみにいはく。いざなぎ。いざなみ。ふたばしらのかみ。
 ⑤ たかまのはらにましての玉はく。まさにくにあらんやとの
 ⑥ 玉ひて。すなはちあまのとぼこをもて。おのころじまを
 ⑦ かきさぐりなす。
 ⑧ あるふみにいはく。いざなぎ。いざなみ。ふたばしらのかみ。
 へ十一裏
- ① あひかたりての玉はく。ものあり。うかへるあぶらのごとし
 ② そのなかに。けだしくにあらんやとの玉ひて。すなはちあま
 ③ のとぼこをもて。ひとつのしまをかきさぐりなす。なづけ
 ④ ておのころじまといふ。
 ⑤ あるふみにいはく。めがみまづとなへての玉はく。あなにゑや
 ⑥ えをとこ。ときにめがみの。ことさいだつるをもて。かれ
 ⑦ さがなしとして。さらにまたあらためぐる。すなはちを

⑧ がみまづとなへての玉はく。あなたにゑやえをとめ。つひに
 へ十二表

- ① みあはせんとするに。しかもそのみちをしらず。ときにはは
 くなぶりあり。とびきたりて。そのかしらをとたく。ふた
 ② ばしらのかみそなはして。これにならひて。すなはちと
 ③ つぎのみちをえつ。
 ④ あるふみにいはく。ふたばしらのかみ。みとのまくばひして。
 ⑤ まづあはぢのしま。あはのしまをもて。えとし。おほやま
 ⑥ ととよあきつしまをうむ。つぎにいよのしま。つぎにつくし
 ⑦ のしま。つぎにおきのしまと、さどのしまとを、ふたごに
 ⑧ へ十一裏

- ① うむ。つぎにこしのしま。つぎにおほしま。つぎにこ
 ② じま。
 ③ あるふみにいはく。まづあはぢのしまをうむ。つぎにおほや
 ④ まととよあきつしま。つぎにいよのふたなのしま。つぎに
 ⑤ おきのしま。つぎにさどのしま。つぎにつくしのしま。つぎ
 ⑥ にゆきのしま。つぎにつしまじま。
 ⑦ あるふみにいはく。おのころじまをもてえとして。あはぢの
 ⑧ しまをうむ。つぎにおほやまととよあきつしま。つぎに
 へ十三表

- ① いよのふたなのしま。つぎにつくしのしま。つぎにきびの
 ② こじま。つぎにおきのしまと。さどのしまとを。ふたごに
 ③ うむ。つぎにこしまじま。
 ④ あるふみにいはく。あはぢのしまをもてえとして。おほ
 ⑤ やまととよあきつしまをうむ。つぎにあはのしま。
 ⑥ つぎにいよのふたなのしま。つぎにおきのみつごのし

⑦ ま。つぎにさどのしま。つぎにつくしのしま。つぎに
 ⑧ きびのこじま。つぎにおほしま。
 へ十三裏

- ① あるふみにいはく。めがみまづとなへての玉はく。あなに
 ② ゑやえをとこ。すなはちをがみのみてをとりて。
 ③ つひにをとめとなりて。あはぢのしまをうむ。つぎ
 ④ にひるこ。
 ⑤ つぎにうなばらをうむ。つぎにかはをうむ。つぎにやまを
 ⑥ うむ。つぎにきのおやく々のちをうむ。つぎにくさのお
 ⑦ やかやのひめをうむ。またはのづちとなづく。すでにし
 ⑧ て。いざなぎのみこと。いざなみのみこと。ともにはかりて
 へ十四表

- ① のたまはく。あれすてにおほやしまのくに。をよびやまかはく
 ② さきをうめり。いかんぞあめのしたのきみたるものをうま
 ③ ざらんや。こゝにとともに、ひのかみをうみまつります。おほひ
 ④ るめのむちとまうす。〔大日靈貴此云ニ於保比屢咩ノ能武智一
 力丁反あるふみに〕
 ⑤ 「いはく。あまてらすおほんがみ。あるふみに／いはく。あまてらすお

- ほひるめのみこと。このみこ。ひかりうるはしくして。
 ⑥ くにのうちにてりとほる。かれふたはしらのかみ。よろこび
 ⑦ ての玉はく。あがこ。さはあるといへども。いまだかくくしひにあ
 ⑧ やしきみこはあらず。むべひさしく。このくにととめまつるへ
 へ十四裏

- ① からず。みづからまさに。はやくあめにおくりまつりて。さづ
 ② くるに。あめのことをもてすべし。このとき、あめつちあひさる
 ③ こと、いまだとほからず。かれあめのみはしらをもて。あめに

- ④ おくりあぐ。つきに、つきのかみをうみまつります。「あるふみ／にははく。」
- ⑤ 「つきゆみのみこと。つきよみの／みこと。つきよみのみこと。」そのひかりうるはしきことひにつ
- ⑥ げり。もてひにならべて。しらすべし。かれまたあめにおくりま
- ⑦ つる。つきにひるこをうむ。すでにみとせになるまで。あしな
- ⑧ ほとゝず。かれ。あまのいはくすぶねにのせて。かぜのまにくく
へ十五表
- ① はなちすつ。つきにそさのをのみことをうみまつります。
- ② 「あるふみにいはく。かみそさのをの／みこと。はやそさのをのみこと」このかみいさみたけうして。もてい
- ③ ぶりなりことあり。またつねになきいざつるをもてわざとす、
- ④ かくれくのうちのひとくさをして。さはにもてあからさまに
- ⑤ す。またあをやまを。からやまになす。かれそのかぞいろは
- ⑥ のふたばしらのかみ。そさのをのみことにみことのりし
- ⑦ 玉はく。いましはなはだあぢきなし。もてあめのしたにきみ
- ⑧ たるべからず。まことにまさ。とほくねのくにゝいねとの玉
へ十五裏
- ① ひて。つひにやらひき。
- ② あるふみにいはく。いさなぎのみことのゝ玉はく。あれ、あめのしたをしらすべき。うつこのをうまんとおもふとのたまひて。
- ③ すなはちひだりのみてをもて。ますみのかゞみをとりましたふとき。すなはちなりいづるかみです。これをおほひるめのみことゝまうす。みぎりのみてに。ますみのかゞみをとりますふとき。すなはちなりいづるかみです。これをつきゆみのみことゝまうす。またみぐしをめぐらして。みるまさがりに。

- へ十六表
- ① すなはちなるかみです。これをそさのをのみことゝまうす。
- ② すなはち。おほひるめのみこと。および、つきゆみのみことはならぶるにこれひとゝなり、てりうるはし。かれあめのしたを。てらしのぞましむ。そさのをのみことは。これひとゝなり。そこなひやぶることをこのむ。かくくだして、ねのくにをしらせしむ。「珍 此云ニ干圖「願晒之間」此云ニ美摩沙可利爾」
- ⑥ あるふみにいはく。ひ、つき、すでにうまれ玉ひぬ。つきにひるこをうむ。このみことしみとせになるまで。あしなほとゝ
へ十六裏
- ① ず。はじめいさなぎ、いざなみのみこと。みはしらをめぐり玉ひしとき。めがみまづよろこぶことをあぐ。すでにめをこのわりたがへり。このゆへにいま、ひるこをうむ。つきにそさのをのみことをうみまつります。このかみひとゝなりさがなうして。つねになきふづくことをこのむ。くにのひとくさ。さはにことなり。あをやまをからやまになす。かれそのかぞいろは。みことのりしての玉はく。たとひいまし。
- ⑧ このくにをしらば。かならず。そこなひやぶるところおほ
へ十七表
- ① からん。かれいましはもてきはめてとほき。ねのくにをしらすべし。つきにとりのいはくすぶねをうむ。すなはちこのふねをもて、ひるこをのせ。みづのまにくはなちすつ。つきにほのかみかぐつちをうむ。ときに。いざなみのみこと。かぐつちのために。やかれてかんざりましぬ。そのかんざりまさんとするあひだに。ふししながら、つちのかみはやまひめ。をよひ。みづのかみみづはめをうむ。すなはち

⑧ かぐつち、はにやまひめにあひて。わかむすびをうむ。
 へ十七裏

① このかみのかしらのうへに。かひこと。くはとなれり。
 ② ほそのなかに。いつくさのたなつものなれり。〔罔象此云ニ美都波
 二〕

③ あるふみにいはく。いざなみのみこと。ほのむすびをう
 ④ むときに。このために。やかれてかんさりましぬ。また

⑤ かみさるといふ。そのかんさりまさんとするのときに。
 ⑥ すなはちみづのかみみづはのめ。をよびつちのか

⑦ みはにやまひめをうむ。またあまのよさつちをう
 ⑧ む。〔天吉葛此云ニ阿摩能與／佐圖羅 一云與曾豆羅〕

へ十八表

① あるふみにいはく。いざなみのみこと。ほのかみかぐつちをう
 ② まんとするときに。あつかひなやむ。よてたぐりす。これかみと

③ なる。なをかなやまひこといふ。つぎにゆはりまるかみと
 ④ なる。なをみづはのめといふ。つぎにくそまる。かみと
 ⑤ なる。なをはにやまひめといふ。

⑥ あるふみにいはく。いざなみのみこと。ほのかみをうむと
 ⑦ きに。やかれてかんさりましぬ。かれきのくにの。く

⑧ まのゝありまのむらに。かくしまつる。ひと。このかみの
 へ十八裏

① みたまをまつるには。はなのときにはまたはなをもて
 ② まつる。またつゞみふえはたをもて。うたひまふてまつる。

③ あるふみにいはく。いざなみのみこと。いざなみのみこと
 ④ と。ともにおほやしまのくにをうみ玉ふ。しかうしてのち。

⑤ いざなみのみことの玉はく。あがうめるくに。たゞ

⑥ あさぎりのみありて。かほりみてるかなとのたまひて。
 ⑦ すなはちふきはらふいきかみとなる。みなをしなが
 ⑧ とべのみこととまうす。またはしながつひこのみこと、

へ十九表

① まうす。これかぜのかみなり。またやはしかりしとき
 ② うめるみこを。うかのみたまのみこととまうす。またわ

③ たづみのかみたちを。わたづみのみこととまうす。やまの
 ④ かみたちを。やまづみとなづく。みとのかみたちを。はや

⑤ あきつひのみこととまづく。きのかみたちを。くゝのち
 ⑥ となづく。つちのかみを。はにやすのかみとなづく。しかう

⑦ してのちに。ことゝく。よろづのものをうみ玉ふ。ほ
 ⑧ のかみかぐつちのうまるゝにいたりて。そのいろは。いざ

へ十九表

① なみのみこと。やかれてかんさりましぬ。ときにいざなみ
 ② のみこと。うらみての玉はく。たゞこのひとつげをもて。わ

③ がうるはしき。なにものみことにかへつるかなとの玉ひ
 ④ て。すなはちまくらべにはらばひ。あとべにはらばひ。なき

⑤ いざちかなしひ玉ふ。そのなみだおちて。かみとなる。これ
 ⑥ すなはち。うねをのこのもにますかみなり。なきさ

⑦ はめのみこととまづく。つひにみはかせる。とつかのつる
 ⑧ ぎをぬいて。かぐつちをきつて。みきだになす。これおの
 へ二十表

① くゝかみとなる。またつるぎのはよりしたるち。これあ
 ② まのやそがはらにある。いほついはむらとなる。すなはち

③ これふつぬしのかみのみおやなり。またつるぎのつみ
 ④ はよりしたるち。そゝいでかみとなる。なづけてみかの

- ⑤ はやひのかみといふ。つぎに。ひのはやひのかみ。そのみかの
 ⑥ はやひのかみは。これたけみかづちのかみのみおやなり。
 ⑦ またいふ。みかのはやひのみこと。つぎに。ひのはやひの
 ⑧ みこと。つぎにたけみかづちのかみ。またつるぎのさき
 二十裏
 ① よりしたるち。そゝいでかみとなる。いはさくのかみと
 ② いふ。つぎに。ねさくのかみ。つぎに。いはつゝをのみこと。あ
 ③ るにいはく。いはつゝをのみこと。をよびいはつゝめのみ
 ④ こと。またつるぎのたかみよりしたるち。そゝいでかみ
 ⑤ となる。なづけてくろおがみといふ。つぎにくらやま
 ⑥ づみ。つぎにくらみづは。しかうしてのち。いざなぎの
 ⑦ みこと。いざなぎのみことをおふて。よもつづくにゝいりまし
 ⑧ て。しきてともにかたる。ときにいざなぎのみことの。玉
 二十一表
 ① はく。あがなせのみこと。なんぞおそくいでましつる。あれ
 ② すでによもつひぐひせり。しかれども。あれまきにねやす
 ③ まん。こふなみましそ。いざなぎのみこと。きゝたまはず
 ④ して。ひそかにゆつをつまぐしをとり。そのほとりばを
 ⑤ ひきかきて。もてたびとしてみしかば。すなはちうな
 ⑥ わきうじたかる。いまひと。よるひとつびとほすことを
 ⑦ いみ。またよるなげぐしをいむ。これそのことのもとな
 ⑧ り。ときにいざなぎのみこと。おほきにおどろき玉ひ
 二十一裏
 ① てのたまはく。あれおもはず。いなしこめき。きたなきくにゝ
 ② きにけりとの玉ひ。すなはちすみやかににげかへる。ときに
 ③ いざなぎのみこと。うらみての玉はく。なんぞちぎりしこ

- ④ とをもちたまはずして。あれに。はぢみせますとの
 ⑤ たまひて。すなはちよもつしこめやつひとをまたして。
 ⑥ 「あるにいはく。よもつひさめ。」おふてとゞめまつる。かれいざな
 ⑦ ぎのみこと。
 ⑧ つるぎをぬいて。しりへでにふぎつゝもてにぐ。よてくろぎ
 ① みかづらをなげたまふ。これすなはちえびになる。しこめ。
 二十一表
 ① みてとりはむ。はみをはりて。すなはちまたおふ。いざなぎ
 ② のみこと。またゆつをつまぐしをなげ玉ふ。これすなはち
 ③ たかんなになる。しこめ。またもてぬきはむ。はみをはり
 ④ てすなはちまたおふ。のちにすなはちいざなぎのみ
 ⑤ こと。またみづからおひいでます。このときにいざなぎの
 ⑥ みこと。すでによもつひらさかにいたりましぬ。あるにい
 ⑦ はく。いざなぎのみこと。すなはちおほぎにむかつてゆは
 ⑧ りまる。これすなはちおほがはとなる。よもつひさめ。その
 二十一裏
 ① みづをわたらんとするひまに。いざなぎのみこと。すで
 ② によもつひらさかにいたりましぬ。かれすなはち。ちひと
 ③ ひぎのいはをもて。そのさかぢをふさいで。いざなぎの
 ④ みこと。あひむかつて。たゝして。つひにことゝわたる。とき
 ⑤ にいざなぎのみことの玉はく。うるはしきあがなせ
 ⑥ のみこと。かくのたまはゞ。あれまきにいましがしらする。
 ⑦ くにのひとくき。ひとひに。まさにちかうべをくびりこ
 ⑧ ろさん。いざなぎのみこと。すなはちこたへてのたまはく。
 二十三表
 ① うるはしきあがなにものみこと。かくのたまはゞ。あれは。すな

- ② はちまきに。ひとひに。まさにちかうべあまりいほかうべをうま
 - ③ しめん。よてのたまはく。これよりなすぎそとの玉ひて。す
 - ④ なはちそのつゑをなげ玉ふ。これをふなごのかみといふ。
 - ⑤ またそのおびをなげ玉ふ。これをながちいほのかみと
 - ⑥ いふ。またそのみぞをなげ玉ふ。これをわづらひのかみと
 - ⑦ いふ。またそのはかまをなげたまふ。これをあきくひの
 - ⑧ かみといふ。またそのくつをなげ玉ふ。これをちしきの
- △二十三裏

- ① かみといふ。そのよもつひらさかにおゐて。あるは
 - ② いはゆるよもつひらさかとは。またことにところあるに
 - ③ あらず。たゞまかるにをよんで。いきたふるあひだこれを
 - ④ いふか。ふさげるいはをば。これをよみどにふさがります
 - ⑤ おほんがみといふ。またのなは。ちがへしのおほんがみ。いざ
 - ⑥ なぎのみこと。すでにかへりてすなはちおひくひての
 - ⑦ 玉はく。あれさきに。いなしこめき。ゝたなきとこに
 - ⑧ いたる。かれまさにあがみのけがらはしきものをあらひす
- △二十四表

- ① てんとの玉ひて。すなはちゆいて。つくしのひふがの。をどの
 - ② たちばなのあはきがはらにいたりまして。みそぎはらひ
 - ③ し玉ふ。つひに。みのきたなきものをすゝぎ玉はんとし
 - ④ て。すなはちことあげしての玉はく。かんつせは。これは
 - ⑤ なはだはやし。しもつせは。これはなはだぬるしとの玉ひて。
 - ⑥ すなはちなかのせに。すゝぎ玉ふ。よてもてうめるか
 - ⑦ みを。なづけて。やそまがつひのかみとまうす。つきに。そ
 - ⑧ のまがれるをなほさんとして。うめるかみを。なづけて。
- △二十四裏

- ① かななほひのかみとまうす。つきにおほなほひのかみ。
 - ② またわたのそこにしづみすゝぐ。よてもてうめるかみ
 - ③ をなづけて。そこつわたづみのみことゝまうす。つきに
 - ④ そこつゝをのみこと。またしほのなにかづきすゝぐ。よ
 - ⑤ てもてうめるかみを。なづけて。なかつわたづみのみこ
 - ⑥ とゝまうす。つきになかつゝをのみこと。またしほのうへ
 - ⑦ にうきすゝぐ。よてもてうめるかみを。なづけて。うはつ
 - ⑧ わたづみのみことゝまうす。つきにうはつゝをのみこと。
- △二十五表

- ① すべてこゝのはしらのかみです。そのそこつゝをのみこ
 - ② となかつゝをのみこと。うはつゝをのみことは。これすな
 - ③ はちすみのえのおほんがみなり。そこつわたづみのみ
 - ④ こと。なかつわたづみのみこと。うはつわたづみのみことは。
 - ⑤ これあづみのむらじらが。いつきまつるかみなり。しか
 - ⑥ うしてのち。ひだりのみめをあらひ玉ふ。よてもてうめるかみ
 - ⑦ を。なづけて。あまてらすおほんがみとまうす。またみぎ
 - ⑧ のみめをあらひ玉ふ。よてもてうめるかみを。なづけて。
- △二十五裏

- ① つきよみのみことゝまうす。またみはなをあらひ玉ふ。よて
- ② もてうめるかみを。なづけて。そさのをのみことゝまうす。
- ③ すべてみはしらのかみです。すでにしていざなぎのみこと。
- ④ みはしらのみことにことよぎしての玉はく。あまてらすお
- ⑤ ほんがみは。もてたかまのはらをしらすべし。つきよみの
- ⑥ みことは。もてあをうなばらのしほのやほへをしらすべし。
- ⑦ そさのをのみことは。もてあめのしたをしらすべし。この
- ⑧ ときにそさのをのみこと。としすでおいたり。またやつ

△二十六表

- ① かのひげおひたり。しかれどもあめのしたをしらずして。つねにもてなきいざちふづくむ。かれいざなぎのみこと。
- ② とひての玉はく。いましなにのゆゑにか。つねにかくなくや。
- ③ こたへての玉はく。やつかれいろはのみことに。ねのくに、したがはんとおもふ。たゞいざつことをなすのみとまうし玉ふ。いざなぎのみこと。にくんでの玉はく。こゝろのまゝにいねとの玉ひて。すなはちやらひやりき。
- ④ あるふみにいはく。いざなぎのみこと。つるぎをぬいて。かぐ

△二十六裏

- ① つちをきりて。みきだになす。そのひときだはこれい
- ② かづちのかみとなる。ひときだはこれおほやまづみのかみとなる。ひときだは。これたかおがみとなる。またいはく。かぐつちをきるときに。そのちそゞいで。あまのやそがはらにある。いほついはむらにそまる。よてかみとなる。なづけて。いはさくのかみといふ。つぎにねさくのかみのこ。いはつゝをのかみ。つぎにいはつゝめのかみのこ。ふつぬしのかみ。「倉稻魂」此云二字介能美抱磨一少童此云和多都美頭邊此云摩苦羅陸一脚」
- △二十七表
- ① 「邊」此云阿度陸一 燠火也音 而善反 靈此云於箇美一 音力丁反 吾夫君 此云阿我儺勢一 浪泉之電」
- ② 「此云響母都伊遇比」 乘炬 此云多妣一 不須也 目汚穢 此云伊儺之居梅枳多儺枳一 醜女此」
- ③ 「云志許賣」 背揮 此云志理幣提爾布俱一 泉津平坂此云余母都比羅佐可一 屍 此云愈磨理一 音乃」

④

- ④ 「弔反絶妻之誓此云許等度一 岐神此云布那斗能加微一 憶此云阿波岐二」
- ⑤ あるふみにいはく。いざなぎのみこと。かぐつちのみことをきりて。いつきだになす。これおのゝいつゝのやまづみとなる。ひとつはすなはちかしら、おほやまづみのみとなる。ふたつはすなはちむくる。なかやまづみとなる。みつはすな

△二十七裏

- ① はちて。はやまづみとなる。よつはすなはちこし、まさかつやまづみとなる。いつゝはすなはちあし。しきやまづみとなる。このときに。きるちそゞいで。いしむらきくさにそまる。これくさ、き、いさごのおのづからひをふくむことのもとなり。「麓山足曰麓此云簸耶磨一正勝此云磨沙柯一」去(云)麻一
- ② 左柯豆 雜此云之伎一 音鳥含反」
- ③ あるふみにいはく。いざなぎのみこと。そのいろとをみまさんとおぼして。すなはち、そのをのところにいなり
- △二十八表
- ① ます。このときに、いざなぎのみこと。なほいけりしときのごとくにして、いでむかひて。ともにかたる。すでにして、いざなぎのみことにかたりての玉はく。あがなせのみこと。こふあれをなみましそ。の玉ひをはりてたちま
- ② ちにみへず。ときにくらし。いざなぎのみこと。すなはちひとつびをとぼしてみそなはず。ときにいざなぎのみこと。はれたゞへり。うへにやくさのいかづちあり。いざなぎのみこと。おどろいてにげかへり玉ふ。このときいかづちども

△二十八裏

- ① みなたちておひきたる。ときにみちのほとりに。おほき
 ② なるもゝのきあり。かれいざなぎのみこと。そのきのもとにか
 ③ かれて。よてそのみをとりてもいかづちになげしかば、
 ④ いかづちどもみなしりぞきぬ。これもゝをもて。おにをふ
 ⑤ せぐことのもとなり。ときにいざなぎのみこと。すなはち
 ⑥ そのつゑをなげうちての玉はく。これよりこのかた。いか
 ⑦ づちえこじ。これをふなどのかみといふ。このものなを
 ⑧ ば。くなどのおほちといふ。いはゆるやくさのいかづちとは。か
 二十九表
- ① しらにあるを。おほいかづちといふ、むねにあるを。ほのいか
 ② づちといふ、はらにあるを。つちいかづちといふ、そびらに
 ③ あるを、わかいかづちといふ。かくれにあるを。くろいかづちと
 ④ いふ。てにあるを。やまいかづちといふ。あしのうへにあるを。
 ⑤ のいかづちといふ。ほどのうへにあるを。さくいかづちといふ。
 ⑥ あるふみにいはく。いざなぎのみこと。おふていざなぎのみ
 ⑦ ことのますところにいたりまして。すなはちかたりての玉
 ⑧ はく。いましをかなしとおもふかれきつ。こたへてのたまはく。
 二十九裏
- ① うからあれをなみましそ、いざなぎのみこと。したがひ
 ② 玉はずして。なほみそなはず。かれいざなぎのみこと。
 ③ はちうらみての玉はく。いましすでに。あがこゝろをみつ。
 ④ あれまたいましてがこゝろをみる。ときにいざなぎのみ
 ⑤ こと。またはぢ玉ふ。よてまきにいでかへりなんとす。
 ⑥ ときにたゞにもだしてかへり玉はず。うかふての玉はく。
 ⑦ うからはなれなん。またの玉はく。うからまけじ。すな
 ⑧ はちつばかみを。なづけてはやたまのをといふ。つぎ

- 三十表
- ① にはらふかみを。よもつことさかのとなづく。すべてふ
 ② たはしらのかみです。そのいろとゝ。よもつひらさかに
 ③ あひあらそふにをよんで。いざなぎのみことの玉
 ④ はく。はじめうからがために。かなしひ。をよびしのびける
 ⑤ ことは。これあがつたなきなり。ときによもつちもりび
 ⑥ とまうしてまうさく。の玉ふことあり。のたまはく。あれ
 ⑦ いましとすでにくにをうみてき。いかんぞさらにうまん
 ⑧ ことをもとめんやあれすなはち。まさにこのくにとゞ
 三十裏
- ① まりて。ともにさるべからずといふ。ときにくゝりひめ
 ② のかみ。またまうすことあり。いざなぎのみこと。きこし
 ③ めしてほめ玉ふ。すなはちあらけぬ。たゞしみづから
 ④ よもつくにをみたり。これすでにさがなし。かれそのけ
 ⑤ がらはしきものをすゝぎはらはんとおほして、すなは
 ⑥ ちゆいて、あはのみと、をよびはやすふなどをみそな
 ⑦ はす。しかるにこのふたつのと。しほすではやし。かれ
 ⑧ たちはなのをどにかへり玉ふて、はらひすゝぎ玉ふ。とき
 三十一表
- ① にみづにいりていはつゝのみことをふきなす。みづを
 ② いでゝおほなほひのかみをふきなす。またいりてそ
 ③ こつゝのみことをふきなす。いでゝおほあやつひのか
 ④ みをふきなす。またいりてあかつゝのみことをふき
 ⑤ なす。いでゝおほつちうなばらのもろくのかんたちを
 ⑥ ふきなす。「不負於族此云宇我遯磨概草」
 ⑦ あるふみにいはく。いざなぎのみこと。みはしらのみこに。

- ⑧ ことよぎしての玉はく。あまてらすおほんがみは。もてた
 ≪三十一裏≫
- ① かまのはらをしらすべし。つきよみのみことは。もてひに
 ② ならべてあめのことをしらすべし。そさのをのみことは。
 ③ もてあをうなばらをしらすべし。すでにして。あまてら
 ④ すおほんがみ。あめにましくての玉はく。あしはらのなか
 ⑤ つくに。うけもちのかみありときく。むべいましつきよみ
 ⑥ のみこと。ゆいてみよ。つきよみのみこと。みことのりを
 ⑦ うけてくだります。すでにうけもちのかみのもとに
 ⑧ いたり玉ふ。うけもちのかみ、すなはちかうべをめぐらして
 ≪三十二表≫
- ① くにくむかひしかば。すなはちくちより、いひいづ。またうな
 ② ばらにむかひしかば、すなはちはたのひろもの、はたのさ
 ③ もの、またくちよりいづ。またやまにむかひしかば、けのあ
 ④ らもの、けのにこもの、またくちよりいづ。そのくさくさの
 ⑤ もの、ことくくそなへて。もどりのつくゑにあざへて。
 ⑥ みあへたてまつる。このときに、つきよみのみこと、いかり
 ⑦ おもほでりしての玉はく、けがらはしきかないやしきかな、
 ⑧ むしろくちよりたぐれるものをもて、あへてあれにかふ
 ≪三十二裏≫
- ① べけんやとの玉ひて、すなはちつるぎをぬいてうちこ
 ② ろしつ。しかうしてのちかへりことまうし。つぶさにそのことをま
 ③ うし玉ふ。ときにあまてらすおほんがみ、いかりますこと
 ④ はなはだしいしての玉はく。いましはこれあしきかみなり。
 ⑤ あひみじとの玉ひて、すなはちつきよみのみこと。ひと
 ⑥ ひひとよ、へだてはなれてすみ玉ふ。このうちに。あまてら

- ⑦ すおほんがみ、またあめくまびとをまたして、ゆいて
 ⑧ みせ玉ふ。このときにうけもちのかみ、まことにすてにま
 ≪三十三表≫
- ① かれり。たゞそのかみのいたゞきにうしむまなれるありひた
 ② ひのうへにあはなれり、まゆのうへにかひこなれり、めのなか
 ③ にひえなれり、はらのなかにいねなれり、ほどに。むぎ。をよ
 ④ びまめあづきなれり。あめくまひと。ことくくとりも
 ⑤ ちゆいてたてまつる。ときにあまてらすおほんがみよ
 ⑥ ろこびての玉はく。このものはすなはちうつしきあをひ
 ⑦ とくさの、くらひていくべきものなりとの玉ひて。すな
 ⑧ はちあは、ひえ、むぎ、まめをもて、はたつものとなし。いね
 ≪三十三裏≫
- ① をもて、たなつものとなす。またよてあまのむらぎみ
 ② をさだむ。すなはちそのいねだねをもて。はじめてあ
 ③ まのさなだ。をよびながたにう。そのあきのたり
 ④ ほ、やつかほにしなひてはなはだこゝろよし。またくちの
 ⑤ うちにかひこをふくみて、すなはちいとひくことをえた
 ⑥ り。これよりはじめてこがひのみちあり。〔保食神此云〕
 宇氣母知能〕
 ⑦ 「加微一 鬮見蒼生此云ニ宇都志枳阿鳥比等久佐二
 ⑧ こゝにそさのをのみこと、まうしてまうさく。やつかれいま
 ≪三十四表≫
- ① みことのりをうけ玉はり、ねのくにまかりなんとす。かれ
 ② しばらくたかまのはらにまうで。あねのみことあひまみえ
 ③ て、しかうしてのちにひたふるにまかりなんとおもふ。ゆるすと
 ④ の玉ふ。すなはちあめにのぼりまうづ。このうちにいざなぎの

- ⑤みこと、かんごとすでにをへ玉ひてあつしれ玉ふ。こゝをも
 ⑥てかくれのみやを。あはぢのくにゝつくり。しづかにながくかく
 ⑦れましき。またいはく。いざなぎのみこと。ことすでにいたり
 ⑧ぬ、いきほひまたおほひなり。こゝにあめにのほりまして
 三十四裏
- ①かへりことまうし玉ふ。よてひのわかみやにとゞまりすみ玉ひき。
 ②「少宮此云ニ／倭柯美野」はじめそさののみことあめにのほりますと
 き。お
 ③ほきうみ。これをもとゞろき。たゞよひ。やまをか。これがために。
 な
 ④りほえき。これすなはちかんさがたけしがしからしむるなり。あま
 ⑤てらすおほんがみ。もとよりそのかみ。あらくあしきことをしらしめし
 て、
 ⑥まうくるかたちをきこしめすにいたりて。すなはちさかりにおどろき
 ⑦玉ひての玉はく。あがおとのみことのきたること。あによきこゝろをも
 て
 ⑧せんや。おもふに。まさにくにをうばゝんとするのこゝろさしありてか。
 三十五表
- ①それ。かぞいろはのみこと。すでにもろゝのみことちに。ことよ
 ②せ玉ひて、おのゝそのさかひをたまたしむ。いかなぞゆくべき
 ③くにをすておき、あへてこのところをうかゞふやとの玉ひて。す
 ④なはちみぐしをあげてみづらになし。みもをひきまつひて。は
 ⑤かまになし、すなはち。やさかにのいほつみすまるをもて、
 此云ニ
 ⑥「美須／磨屢」そのみいなだき、をよびたぶさにまつひ。またそびらに
 ⑦ちのりのゆきと、「千箭此云ニ／知能梨」いはのりのゆきとおひ

- ⑧たゞむきに、いづのたかがらをはき、「稜威此／云ニ伊都」ゆはずをふ
 り
 三十五裏
- ①たて、たかゞひをとりしほり、かたにはをふんで、むかもゝに
 ②ふみおとし、あはゆきのごとくもてくゑはらゝかし、「蹴散／此云ニ」
 ③「俱機簸邏／々箇須」いづのをたけびをふるはし「雄話此云ニ／鳥多稽
 眉」いづ
 ④のころびをおこして、「噴讀此云ニ／舉盧毗」たゞになじりて、とひ玉
 ひ
 ⑤き。そさののみこと、こたへての玉はく。やつかれはじめより。き
 ⑥たなきこゝろなし。たゞしかぞいろはのみこと、すでにいづく
 ⑦しきみことのります、ひたふるにねのくにゝまかりなんとす。
 ⑧もしあねのみことゝ、あひまみえずは。やつかれ、いかなぞよく
 三十六表
- ①あへてまからん、こゝをもて、くもきりをふみわたり、とほうより
 ②きつ、おもはずあねのみこと、かへりていかり玉はんといふことを。と
 ③きにあまらすおほんがみ。またとひての玉はく。もししからば。
 ④まさになにをもて、いましがきよきこゝろをあかさん。こたへ
 ⑤ての玉はく。こふあねのみことゝ。ともにうけはん、それうけひの
 ⑥みなかに「誓約之中此云ニ字／氣響能美難箇」かならずまさにこをう
 む
 ⑦べし。もし。やつかれうめらん、これをんなごならば、すなはちきた
 ⑧なきこゝろありとおぼせ。もしこれをのこゞらば。すなはちき
 三十六裏
- ①よきこゝろありとおぼせ。こゝにあまてらすおほんがみ、すな
 ②はこそさののみことの、とつかのつるぎをこひとり、う

- ③ちをりてみきだになし。あまのまなるにふりすゞぎ、さかみ
 ④にかんで、「豁然^{かちんぜん}咄^{しつ}囃^し」此云^{こゝに}「佐我彌爾^{さわみに}加武^{かぶ}」ふきうつるいぶきのさ
 ぎり
 ⑤に、「吹棄^{ふいき}氣噴^{きほん}之^し」狭霧^{せうむ}此云^{こゝに}「浮枳^{うき}」于都^う屢伊^{るい}浮岐^{うき}能^の佐擬^{さぎ}理^り」うまるゝか
 みを、なづ
 ⑥けてたごりひめといふ、つぎにたきつひめ、つぎにいちぎし
 ⑦まびめ、すべてみはしらのひめがみます。すでにしてそさのを
 ⑧のみこと。あまてらすおほんがみの、みいなき、をよびたぶさ
 ≡三十七表≡
 ①にまかせる。やさかにの、いほつみすまるをこひとり。あまのまな
 ②るにふりすゞぎ。さかみにかんで。ふきうつるいぶきのさぎりにうま
 ③るゝかみを。なづけまつりて。まさやあかつゝのはやひあまのおし
 ④ほみゝのみことゝまうす。つぎにあまのほひのみこと「これいづもの
 おんはじの」
 ⑤「むらじらがとほ／つおやなり」つぎにあまつひこねのみこと「これお
 ふし。かうちのあ／たひ。やましろのあた」
 ⑥「ひらがとほ／つおやなり」つぎにいくつひこねのみこと、つぎにくま
 のゝくす
 ⑦ひのみこと、すべていつはしらのひこがみます。このときあまて
 ⑧らすおほんがみ、みことのりしての玉はく。そのものだねを
 ≡三十七裏≡
 ①たづぬれば、すなはちやさかにのいほつみすまるは、これあ
 ②がものなり。かれそのいつはしらのひこがみは、ことゝくこれあ
 ③がこなりとの玉ひて。すなはちとりてひたし玉ふ、またみこと
 ④のりしての玉はく。そのとつかのつるぎは、これそさのをのみ
 ⑤ことのものなり。かれこのみはしらのひめがみは、ことゝく

- ⑥これいまいがこなりとの玉ひて。すなはちそさのをのみこ
 ⑦とにさづけ玉ふ、これすなはちつくしのむながたのきみ
 ⑧らがいつきまつるかみこれなり。
 ≡三十八表≡
 ①あるふみにいはく。ひのかみ。もとよりそさのをのみことの。たけ
 ②うして、ものをしのぐのこゝろあることをしるしめせり。そのゝ
 ③ほりいたるにをよびて、すなはちおほさく、おとのみことのき
 ④まするゆゑは、これよきこゝろにあらじ。かならずまさに、あが
 ⑤あまのはらを。うばはんとならんとの玉ひて。すなはち
 ⑥ますらをの、たけきそなへをまふけ玉ふ。みにとつかの
 ⑦つるぎ、こゝのつかのつるぎ、やつかのつるぎをはき。また。
 ⑧そびらにゆきをおひ。また。たゞむきに、いつのたかがらを
 ≡三十八裏≡
 ①はき、てにゆみやをとり。みづからむかへてふせぎ玉ふ。このと
 ②きに、そさのをのみこと、まうしての玉はく。やつかれもとよ
 ③り、きたなきこゝろなし。たゞあねのみことゝ、あひまみ
 ④えんとおもふ。たゞしばらくまうきつらくのみ。こゝにひの
 ⑤かみ、そさのをのみことゝともに。あひむかひて、たゞして
 ⑥うけひての玉はく。もしいまいがこゝろきようしてのぎ
 ⑦うばはんといふこゝろあらぬものならば、いまいがなさんこ
 ⑧かならずまさに、ますらをならんとの玉ひをはりて。まづ
 ≡三十九表≡
 ①みはかせる、とつかのつるぎをし、みこをなす、おきつしまび
 ②めとなづく。またこゝのつかのつるぎをし、みこをなす、
 ③たきつひめとなづく。またやつかのつるぎをし、みこ
 ④をなす。たごりひめとなづく。すべて、みはしらのひめがみ

- ⑤ ます。すでにして、そさのをのみこと、そのくびにうなげる、
 ⑥ いほつみすまるのにもて、あまのぬなる、またのなは、
 ⑦ いざのまなるにふりすゞぎこれをす、すなはちみこを
 ⑧ ます、まさやあかつくのはやひあまのおしほねのみこと
 三十九裏

- ① とまうす。つぎにあまつひこねのみこと、つぎにいくつ
 ② ひこねのみこと、つぎにあまのほひのみこと、つぎにくま
 ③ のおしほんのみこと、すべていつはしらのひこがみます。かれ
 ④ そさのをのみこと、すでにかつしるしをえつ、こゝにひのか
 ⑤ み、まさにそさのをのみことの。もとよりきたなきこゝろな
 ⑥ きことをしらしめして。すなはちひのかみのあれませる、み
 ⑦ はしらのひめがみをもて、つくしのくにゝあまくだりまさ
 ⑧ しむ。よてをしへての玉はく。いましめはしらのかみは。よろ
 四十表
- ① しくみちのなかにくだりまして、あめみまごをたすけまつ
 ② りて、あめみまごのためにいかつれよ。
 ③ あるふみにいはく。そさのをのみこと、あめにのほりまさん
 ④ とするときに、ひとりのかみあり、なは、はあかるだま。こ
 ⑤ のかみむかへまつりて、みづのやさかにのまがたまをたてま
 ⑥ つる。かれそさのをのみこと、そのたまをもて、あめに
 ⑦ まうづ。このときに、あまてらすおほんがみ、おとのみことの、
 ⑧ きたなきこゝろあらんとうたがひ玉ひて、いくさをおこし
 四十裏
- ① てとひたまふ。そさのをのみこと、こたへての玉はく。やつかれまう
 ② くるゆゑは。まことにあねのみことゝ、あひまみえんとおもふ。
 ③ またゝからのみづのやさかにのまがたまをたてまつらんとお

- ④ もふのみ、あへてことゝろあるにあらず。ときにあまてらす
 ⑤ おほんがみ、またとふての玉はく。いましがいふこと、いつはりまこ
 ⑥ とを、まさになにをもてかしるしとせん。こたへてのたまはく。
 ⑦ こふやつかれあねのみこととともけひたてん、うけひ
 ⑧ のみなかに、をんなごをなさば、きたなきこゝろありとお
 四十一表

- ① ぼせ。をのこゝをなさば、きよきこゝろありとおぼせ、すなは
 ② ちあまのまなる、みところをほりて、あひともにむかひたつ。
 ③ このときに、あまてらすおほんがみ、そさのをのみことにかたり
 ④ てのたまはく。あがはかせるつるぎをもて、いままにいまし
 ⑤ にたてまつらん、いましはいましがもたる。やさかにのまがたまを
 ⑥ もてあれにくれよ、かくちぎりて、ともにあひかへてとり玉ふ。す
 ⑦ でにして、あまてらすおほんがみ、すなはちやさかにのまがたま
 ⑧ をもて、あまのまなるにうけよせて、にのはしをくひたちて。
 四十一裏
- ① ふきいづるいぶぎのみなかなるかみを、いちきしまびめの
 ② みことゝなづく。これはおきつみやにますかみなり。また。にの
 ③ なかをくひたちて。ふきいづるいぶぎのみなかなるかみを、
 ④ たごりひめのみこととなづく。これはなかつみやにますかみ
 ⑤ なり。また。にのをくひたちて。ふきいづるいぶぎのみなかに
 ⑥ なるかみを、たきつひめのみことゝなづく。これはへつみや
 ⑦ にますかみなり。すべてみはしらのひめがみます。こゝにそ
 ⑧ さのをのみこと、もたるつるぎをもて、あまのまなるにうけ
 四十二表
- ① よせて、つるぎのすゑをくひたちて。ふきいづるいぶぎのみ
 ② なかなるかみを、あまのほひのみこととなづく。つぎにまさ

- ③ やあかつくのはやひあまのおしほねのみこと、つぎにあま
 ④ つひこねのみこと、つぎにいくつひこねのみこと、つぎに
 ⑤ くまのくすひのみこと、すべていつはしらのひこがみます
 ⑥ としかいふ。
 ⑦ あるふみにいはく。ひのかみ、そさのをのみこと、あまのやす
 ⑧ がはらをへだて、あひむかひて。すなはちうけひをたて。
 〔四十二裏〕
 ① の玉はく。いまし。もしあたなふこゝろあらざるものならば、
 ② いましがうめらんこ、かならずをのこならん。もしをのこをう
 ③ めらば、あれもてことなして、あまのはらをしらしめん。こゝに
 ④ ひのかみ、まづそのとつかのつるぎををし。あれますみこ、
 ⑤ おきつしまびめのみこと、またのなは、いちきしまびめの
 ⑥ みこと、またこゝのつかのつるぎををし、あれますみこ、た
 ⑦ きつひめのみこと、またやつかのつるぎををし、あれますみ
 ⑧ こ、たきりひめのみこと。すでにしてそさのをのみこと、
 〔四十三表〕
 ① そのひだりのもとゞりにまかせ、いほつみすまるのにをふくみ
 ② て、ひだりのてのたなうちにおいて、すなはちをのこを
 ③ なす。すなはちことあげしての玉はく、まさやあれかちぬ、か
 ④ れよてなづけて、かつのはやひあまのおしほみゝのみこと
 ⑤ とまうす。またみぎのもとゞりのにをふくみて、みぎのての
 ⑥ たなうちにおいて、あまのほひのみことをなす。またみく
 ⑦ びにうなげるにをふくみて、ひだりのたゞむきのなかにおい
 ⑧ て、あまつひこねのみことをなす。またみぎのたゞむきの
 〔四十三裏〕
 ① なかより、いくつひこねのみことをなす。またひだりのあし

- ② のなかより、ひのはやひのみことをなす。またみぎのあし
 ③ のなかより。くまのくすひのみことをなす。またのなは
 ④ くまのくすひのみこと。そのそさのをのみこと、うめ
 ⑤ るみこ、みなすでにひこがみなり。かれひのかみ、まさに
 ⑥ そさのをのみことの、もとよりきよきこゝろありとしろし
 ⑦ めし。すなはちそのむはしらのひこがみをとて。もてひのかみ
 ⑧ のみことなして、あまのはらをしらせしむ。すなはちひの
 〔四十四表〕
 ① かみのあれませる、みはしらのひめがみをもて、あしはらの
 ② なかつくくのうさのしまにあまくだりまさしむ。いまうなのき
 ③ たのみちのなかにます、なづけてみちぬしのむちとまうす。
 ④ これつくしのみぬまの、きみらが、いつきまつるかみこれなり。
 ⑤ 「燻干也／此云レ備」
 ⑥ このゝちに、そさのをのみことのしわざ、はなはだあちきなし。いかん
 ⑦ とならばあまてらすおぼんがみ、あまのさなだ、ながたをもてみ
 ⑧ たとし玉ふ。ときにそさのをのみこと、はるはすなはちしきま
 〔四十四裏〕
 ① きし、「重播種子此／云三鹽枳磨積」またあをはなち「毀此云三／波
 那豆」あきは
 ② すなはちあまのぶちごまをはなち、みたのなかにふさしめ。またあ
 ③ まてらすおぼんがみ、にはなひきこしめすときをみて、すなはち
 ④ ひそかに、にはなひのみやにけがしす。またあまてらすおぼんがみの、
 ⑤ まさにかんみぞをおりつゝ、いんはたとのにましますをみて、す
 ⑥ なはちあまのぶちごまをさかはぎにして、みあらかのいらかを
 ⑦ うがちてなげいる。このときにあまてらすおぼんがみ、おどろき玉
 ⑧ ひて、かひをもてみをいたましむ。これによていかりまして、すな

〈四十五表〉

- ①はちあまのいはやにிரりましていはとをさしてこもりましぬ。かれ
- ②くにのうちとこやみにして、ひるよるのあひかはるわきをもしらず
- ③ときにやそよるづのかむたち、あまのやすがはらに、かむつどひ
- ④につどひて、そのいのるべきさまをはからふ、かれおもひがねのかみ、
- ⑤ふかくはかりとほくたばかりて。つひにとこよのながなきどりを
- ⑥あつめて、たがひにながなきせしむ。またたちからをのかみをもて、
- ⑦いはとのとわきにかくしたてて、なかとみのむらじのとほつ
- ⑧おや、あまのこやねのみこと、いむべのとほつおや、ふとだまの

〈四十五裏〉

- ①みこと、あまのかごやまの、いほつまさかきをねこじにして、かん
- ②つえには。やさかにのいほつまさかきをとりかけなかつえには。
- ③やたのかゞみをとりかけ、「あるにいはいく／まふつのかゞみ」しづえには、あをにぎて
- ④「和幣此云ニ／尼根底」しらにぎてをとりして、あひとともにのみいのり

- ⑤まうす。またさるめのきみのとほつおや、あまのうすめのみこと
- ⑥すなはちてにちまきのほこをもち、あまのいはやどのまへに
- ⑦たゝして、たくみにわざをきす。またあまのかごやまの、ま
- ⑧さかきをもてかづらになし、ひかけをもて「蘿此云ニ／比舸礙」たす

〈四十六表〉

- ①になして。「手繩此云ニ／多須根」ほどころたき、うけとゞろかし
 - ②「此云ニ／字該」かむがゝりす、「顯神明之憑談此云ニ
- 歌牟擲可梨」このときに、あまて

- ③らすおほんがみ、きこしめしての玉はく、あれこのごろ、いはや
- ④にこもりをる、おもふに、まさにとよあしはらのなかつくには、かなら
- ⑤ずとこやみならん。いかんぞあまのうすめのみこと、かくゑらく
- ⑥するやとの玉ひて。すなはちみてをもていはとをほそめに
- ⑦あけてみそなはず。ときにたちからをのかみ、すなはちあ
- ⑧まてらすおほんがみのみてをたまはり、ひきいだしたてま

〈四十六裏〉

- ①つる。こゝになかとみのかみ、いむべのかみ、すなはちしりくめな
- ②はをひきわたし、「繩亦云左繩端出此云ニ斯梨俱梅難波」すなは

ち

- ③まうしてまうさく、またなかへりましそ。しかうしてのちもろくの
- ④かんたち、つみをそさのをのみことによせ、おふするにちくらの
- ⑤おきどももて、つひにせめはたる。かみをぬかしむるにいたりて、
- ⑥もてそのつみをあかふ。またはいく、そのてあしのつめをぬいて、
- ⑦これをあかふ。すでにしてつひにかんやらひにやらひき。
- ⑧あるふみにいはく。このゝちにわかひるめのみこと、いむはたど

〈四十七表〉

- ①のにまして、かんみぞをおり玉ふ。そさのをのみこと、みそ
- ②なはして。すなはちぶちごまを、さかはぎにして。みあらかの
- ③うちになげいる。わかひるめみこと、すなはちおどろき玉ひ
- ④て、はたものよりおち、もたるかひをもて、みをいたましめて
- ⑤かんさりましぬ。かれあまてらすおほんがみ、そさのをのみ
- ⑥ことにかたりての玉はく。いましなほきたなきこゝろあり、
- ⑦いましとあひみじとの玉ひて、すなはちあまのいはやに
- ⑧いりまして、いはとをさしつ。こゝにあめのしたとこやみ

〈四十七裏〉

- ① にして。またひるよるのわきもなし。かれやそよろづのかみ
 ② たちを、あまのたけちに、かんつどへにつどへてとはしむ。ときに
 ③ たかみむすびのみこ、おもひがねのかみといふかみあり。おもひ
 ④ たばかりのさとあり。すなはちおもふてまうしてまうさく、
 ⑤ よろしくかのかみのかたをあらはしつくりておきたてま
 ⑥ つらん。かれすなはちいしりどめをもてたくみとし、あま
 ⑦ のかごやまのかねをとりて、もてひほこにつくらしむ。またま
 ⑧ なかのかはをうつはぎにしてみてもあまのはぶきをつくる。
 〔四十八表〕
- ① これをもてつくりたてまつるみかたは、これすなはちきのく
 ② にまします、ひのまへのかみなり。〔石凝姥 此云伊之居／梨度畔
 一全剝此云三字
 一都播／伎二〕
- ③ 〔都播／伎二〕
 ④ あるふみにいはく。ひのかみのみことあまのかきだをもてみた
 ⑤ とし玉ふ。ときにそさのをのみこと、はるはみぞをうめ、あ
 ⑥ をはなち、またあき。たなつものすでになりぬるときは、
 ⑦ ひきわたすにあげなはをもてす。またひのかみはたどのに
 ⑧ ますますときに、すなはちぶちごまをいきはぎにしてその
 〔四十八裏〕
- ① みあらかのうちになげいる。すべてこのもろ／＼のこと、こと／＼く
 ② これあぢきなし。しかれどもひのかみ、このかみをとゝいふむつま
 ③ しきみごゝろをもて。とがめ玉はず、うらみ玉はず。みなたひ
 ④ らかなるみごゝろをもてゆるし玉ふ。ひのかみ、にはなひきこし
 ⑤ めすときにいたるにをよんで、そさのをのみこと、すなはちに
 ⑥ はなひのみやのみましのしたにおいて、ひそかにみづからく
 ⑦ そまる。ひのかみしろしめさずして、たゞにみましのうへに

- ⑧ む玉ふ。これによりて、ひのかみ、みこそりてやくさみ玉ふ。かれ
 〔四十九表〕
- ① もていかりまして、すなはちあまのいはやにましく／＼て、そのい
 ② はとをさしぬ。ときにもろかむたちうれへて、すなはちかゞみ
 ③ つくりべのとほつおや、あまのぬかどゝいふかみをして。かゞみをつ
 ④ くらし。いむべのとほつおや。ふとだまといふかみをして。にぎてを
 ⑤ くらし。たますりべのとほつおや。とよたまといふかみをして。たま
 ⑥ を
 ⑦ つくらしむ。またやまづちといふかみをして。いほつまさかきやそた
 ⑧ まぐしをとらし。のづちといふかみをして。いほつすゝやそたまぐ
 ⑨ し
 ⑩ をとらしむ。すべてこのもろ／＼のもの、みなつどひぬ。ときに
 〔四十九裏〕
- ① なかとみのとほつおや、あまのこやねのみこと、すなはちもて
 ② かんほさき／＼き。こゝにひのかみ、まさにいはとをあげていで
 ③ ます。このときに、かゞみをもてそのいはやにいれしかば、とにつぎ
 ④ ふれてこぎずつくり。そのきずいまになほうせず、これすな
 ⑤ はちいせにいつきまつるおほんがみなり。すでにしてつみを
 ⑥ そさのをのみことにおふせて、そのはらへつものをはたる、こゝ
 ⑦ をもてたなすゑのよしきらひもの、あなすゑのあしきらひ
 ⑧ ものあり。またつはきをもてしらにぎてとし。よだりをもて
 〔五十表〕
- ① あをにぎてとす。これをもてはらへて、つひにかんやらひの
 ② ことわりをもてはらふ。〔送葉 此云二俱蘇摩二 玉籤／此云二多摩
 俱之一 穠俱、此云二〕

- ③ 「波羅閉都母能」手端吉業此云多那須衛能余之岐羅毘一神祝
 祝之此云加武保佐枳保佐枳」
 ④ 枳逐之此云波羅賦」
 ⑤ あるふみにいはく。このうちに、ひのかみのみたまところあり。なづ
 けて、あまのやすだ、あまのひらだ、あまのむらあはせだといふ。
 ⑥ これみなよきたなり、ながめひでりにあふといへども、
 ⑦ そのなはるゝところなし。かのそさのをのみことのみた、また
 ⑧ 五十裏
- ① みところあり。なづけて、あまのくひだ、あまのかはよりだ、あま
 ② のくちとだといふ。これみなやせどころなり、あめふればなが
 ③ れ、ひてれはやけぬ。かれそさのをのみこと、ねたみてあねの
 ④ みことのみたをやぶる、はるはひはがち、をよびみぞうめ、あ
 ⑤ はなち、またしきまきす。あきはくしぎし、むまをふす、
 ⑥ すべてこのあしきこと、かつてやむるときなし。しかれどもひの
 ⑦ かみ、とがめ玉はず、つねにたひらかなるみごゝろをもて、な
 ⑧ だめ玉ふ。しかく。ひのかみ、あまのいはやにこもりますにいた
 五十一表
- ① りて、もろかんだち。なかとみのむらじのとほつおや。こゝと
 ② むすびのみこ、あまのこやねのみことをまたして、のみまう
 ③ さしむ。こゝにあまのこやねのみこと、あまのかごやまのまさか
 ④ きをねこじにして、かんつえには、かゞみつくりのとほつおや、
 ⑤ あまのぬかどがこ、おのこりとべがつくれる、やたのかゞみを
 ⑥ とりかけ、なかつえには、たますりのとほつおやいぎなき
 ⑦ のみことのみこ、あまのあかるだまのすれる、やさかにのま
 ⑧ がたまをとりかけ、しづえには、あはのくにいむべのとほつ
 五十一裏

- ① おや、あまのひわしがはげるゆふをとりしてゝ。すなはちい
 ② むべのをぶしのとほつおや、ふとだまのみことをしてとりも
 ③ たしめ、ひろくあつくたゝへごとをへのみまうさしむ、と
 ④ きにひのかみ、きこしめしての玉はく。このごろひときは
 ⑤ にまうすといへども、いまだかくいふことうるはしきはあらず
 ⑥ すなはちほそめにいはとをあけてみそなはず。このと
 ⑦ きに、あまのたちからのかみ、いはとのわきにかくれ
 ⑧ さふらひて、すなはちひきあけしかば、ひのかみのひかり、
 五十二表
- ① くにのうちにみちき。かれもろくのかみたち、おほきに
 ② よろこび玉ひて、すなはちそさのをのみことに、ちくら
 ③ おきどのほらへをおふせて、てのつめをもては、よしきら
 ④ ひものとし、あしのつめをもては、あしきらひものとす。す
 ⑤ なはちあまのこやねのみことをして、そのほらへのふとの
 ⑥ りとをつかさどりのらしむ。ひとつしんでおのがつめを
 ⑦ をさむるはこれそのこととなり。すでにして、もろ
 ⑧ くのかみたち、そさのをのみことをせめての玉はく、いま
 五十二裏
- ① しがしわざ、はなはだたのもしげなし。かれあめにすむべか
 ② らず。またあしほらのなかつくにゝもおるべからず、むべすみや
 ③ かに、そこつねのくにゝいねといひて。すなはちともにやら
 ④ ひやりき。ときにながめふる、そさのをのみこと、あをく
 ⑤ さづかをゆひて。もてかさみのとし、やどをもちかむた
 ⑥ ちにこふ。もろかむたちの玉はく、いましはこれみのしわざ
 ⑦ けがらはしくして、やらひせめらるゝかみなり。いかんぞ。や
 ⑧ どりをわれにこふといひて、つひにともにふせぐ。こゝを

△五十三表△

- ① もてかぜあめ。はなはだふきふるといへども、とゞまりやすむことをえず。たしなみつゝくだりき。それよりこのかた。よゝ、かさみのをき。もてひとのやのうちにいることをいむ。
- ② またくさづかをおふて。もてひとのいへのうちにいることをいむ。これをゝかすことあるものには、かならずはらへをおふす、これいしへののこれるのりなり。このゝちに。
- ③ そさのをのみことのたまはく。もろかむたちわれを
- ④ やらふ、われいままさに、ひたふるにまかりなん、いかんぞ

△五十二表△

- ① あがあねのみことゝあひまみえまつらずして、ほしいまゝに、みづからたゞにまからんやとの玉ひて。すなはちまたあめをどよもし。くにをどよもし。あめにのぼりまうづ。と
 - ② きにあまのうすめ、みてひのかみにまうす。ひのかみの玉はく、あがをとのみこときますゆゑは、またよきこゝろにあらじ、かならずあがくにをうばゝんとならんか。あれたをやめなりといふとも、なんぞさらんやとの玉ひて、すなはちみに、たけきそなへをよそほひ玉ふ。しかく。こゝにそ
- △五十四表△
- ① さのをのみこと、うけひての玉はく、やつかれ。もしよからぬことをおもふて。またまうできたらば、やつかれいまたまをくひうめらんこ、かならずまさにをんなごならん。かゝらばすなはちをんなを、あしはらのなかつくにゝくだし玉へ。もしきよきこゝろあらば。かならずまさにをのこをなさん。かゝらばすなはちをのこをして、あめをしらしめたまへ。またあねのみことのなし玉はんも、またこのうけ

- ⑧ ひにおなじからん。こゝにひのかみ、まづとつかのつるぎを
- △五十四裏△

- ① くひ玉ふ。しかく。そさのをのみこと、すなはちをもくるゝに、そのひだりのもとゞりにまかせる、いほつみすまるののをゝひきとき、にのおとのおなどもゝゆらに、あまのぬなるにすゝぎうけ、そののをゝかみ、ひだりのたなうらにおいてみこをなす、まさやあかつゝのはやひあまのおしほねのみこと。またみぎのにかみ、みぎのたなうらにおいてみこをなす、あまのほひのみこと、これはいづものおんむさしのくにのみやづこ、はじのむらじ

△五十五表△

- ① らがとほつおやなり。つぎにあまつひこねのみこと、これはうばらきのくにのみやづこ、ぬかたべのむらじらがとほつおやなり。つぎにいくつひこねのみこと、つぎにひのはやひのみこと、つぎにくまのゝおほすみのみこと、すべてむはしらのひこがみます。こゝにそさのをのみこと、ひのかみに、まうしてまうさく。やつかれさらにまうくるゆへは、もろかむたち。あれをおくにねのくにをもてす、いままさにまかりなんとす。もしあねのみことゝあひまみえま

△五十五裏△

- ① つらずは、つひにしのびわかれますことあたはじ。かれまことనికిよきこゝろをもてまたのぼりまうきつらくのみ。
- ② いますすなはちまみゑまつることすでにをはんぬ。まさにもろかむたちのみごゝろのまゝに、これよりひたふるに、ねのくにゝまかりなん。こふあねのみこと、あめくにをてらしのぞみ玉はんこと。をのづからさきくまします。またやつかれきよき

⑦ こゝろをもてなせるみこたちをば、またあねのみことにた
 ⑧ てまつる。すでにしてまたかへり玉ひき。「廢渠槽／此云ニ秘」
 〔五十六表〕

①「波瀾都」挿籤此云ニ久斯社志一興台産靈此云ニ許／語等武須毘一太
詩解此云ニ布斗能理斗一輻輳全

②「此云ニ平謀苦留爾」瑣瑣此云ニ乎奴儻等母由羅爾」

③このときにそさのをのみこと、あめよりして、いづものくに、ひの

④かはかみにくだります。ときにかはかみにねなくこゑあるをき

⑤く。かれこゑをたづねてまきいでましかは。ひとりのおきなおん

⑥などあり。なかにひとりのをとめをすゑて、かいなでなく。

⑦そさのをのみこと、とひての玉はく、いましたちはたれぞや。

⑧なんぞかなくや。こたへてまうさく、やつかれはこれくにつがみ
 〔五十六裏〕

①なり。なはあしなづち、あがつまのなはてなづち、このをとめは

②これやつかれがごなり。なはくしいなだひめ、なくゆゑは、さき

③にあがこ、やたりのをとめあり。としごとによまたのをろちのた

④めにのまれき。いまこのをとめまたのまれなんとす、のがる

⑤るによしなし、このゆゑにいたむとまうす。そさのをのみこと、

⑥みことりしての玉はく。もししからば、いましまさにむすめを

⑦もてあれにくれんや。こたへてまうさく、みことのりのまゝに

⑧たてまつらん。かれそさのをのみこと、たちながらくしいな

〔五十七表〕

①だひめになり。ゆつのつまぐしをつくりてみづからにさし玉ひ。すなは

②ちあしなづちてなづちをして、やしほをりのさけをかみ、あはせ

③てさすき「假殿此云ニ佐受杵」やまをゆはしめ、おのく／＼ひとつさ
 か

④ぶねをおいて、さけをりてもてまち玉ふ。ときにはたして

⑤をろちあり。かしらをおのく／＼やまたあり。まなこはあかかゞちの

⑥ごとく、「赤酸醬此云ニ阿箇箇擲知」まつかやそびらにおひ、やを
 やたにの

⑦あひだにはひわたれり。さけをうるにいたりて、かしら、おのく／

⑧ひとつさかぶねにおとしられて、ゑひてねふる。ときにそさの

〔五十七裏〕

①をのみこと、すなはちはかせるとつかのつるぎをぬいて、つだ

②く／＼にそのをろちをきる。をにいたりて。つるぎのはすこし

③かけぬ。かれそのをさいてみそなはずれば、なかにひとつ

④のつるぎあり。これはゆるくさなぎのつるぎなり。「草／薙」

⑤「劔此云ニ俱婆那伎能都留伎」あるふみにいはくもとのなは、あま
 のむらくものつるぎ。けだしをろちをるうへに、つねにくもあり。かれ
 もて」

⑥「なづくるか。やまとだけのみこにいたつて、／＼なをあらためて。くさな
 ぎのつるぎといふ。」そさのをのみことのため

⑦はく、これあやしきつるぎなり。あれいかんぞあへて、わたくしに

⑧おけらんやとの玉ひて、すなはちあめのかみのみもとにた
 〔五十八表〕

①てまつりあぐ。しかうしてのちゆきつゝみあはしせんところを

②もとむ。つひにいづものすがにいたります。「清地此云ニ素鶉」すな
 はち

③ことあげしての玉はく、あがこゝろすがく／＼、「これいまこのところ
 を／＼やんですがといふ」

④そこのみやをたつ、「あるにいはく、ときにたけそさのをのみこと。うた
 よ／＼みしての玉はく、やくもたつ、いつもやへがきつまごめに」

- ⑤ 「やへがきつくる、そのやへがきを。」すなはちくみどにみとのまくばひして。みこおほあ
- ⑥ なむちのかみをあれます、よてみことのりしての玉はく、あがこ
- ⑦ のみやのつかさは、すなはちあしなづちてなづちなり、かれ、なを
- ⑧ ふたはしらのかみにたまふて、いなだのみやぬしのかみといふ。
 〔五十八裏〕
- ① すでにしてそさのをのみこと、つひにねのくに、いでましぬ。
- ② あるにいはいく、そさのをのみこと、あめよりしていつものひ
- ③ のかはかみにくだりましぬ。すなはちいなだのみやぬしすさ
- ④ のやつみゝがむすめ、なはいなだひめをみそなはして、すな
- ⑤ はちくみどにおこしてみこをうむ。すがのゆやまぬしみな
- ⑥ さろひこやしましのとなく、あるにいはいく、すがのかけなさか
- ⑦ かるひこやしまてのみこと、またはいはくすがのゆやまぬしみ
- ⑧ なさろひこやしまの、このかみいつよのまごは、すなはちお
 〔五十九表〕
- ① ほくにぬしのかみなり。「篠^{ほの}小^こ竹^{たけ}也」此云^こ「斯^し奴^に」
- ② あるふみにはいく、このときにそさのをのみこと。あきのくに
- ③ えのかはかみにくだります、そこにかみあり、なづけてあし
- ④ なづてなづといふ。そのつまのなをばいなだのみやぬしす
- ⑤ さのやつみゝといふ。このかみまさにはらめり。をとめともに
- ⑥ うれへて、すなはちそさのをのみことにまうしてまうさく。
- ⑦ やつかれうめるこ、さはありといへども、うむたびごとにすな
- ⑧ はちやまたのをろちありてきたりてのむ。ひとりもいける
 〔五十九裏〕
- ① ことをえず、いまやつかれこうまんとす、おそらくはまたの
- ② まれんことを、こゝをもていたむ。そさのをのみこと。すなは
- ③ ちをしへての玉はく、いましよろ／＼のこのみをもて、さげや
- ④ はらをかむべし、あれまきにいまじがためにをろちをころ
- ⑤ さん。ふたはしらのかみ、みことのりのまゝにさげをまうく。
- ⑥ こうむどきにいたりて、かならずそのをろち、とにあたりこそ
- ⑦ のまんとす。そさのをのみこと、をろちにみことのりしての
- ⑧ 玉はく、いましはこれかしこきかみなり、あへてみあへせざらんや
 〔六十表〕
- ① との玉ひて、すなはちやはらのさけをもてくちごにいれ玉ふ。そ
- ② のをろち、さげをのみてねふる。そさのをのみこと、つるぎ
- ③ をぬいてきり玉ふ。をゝきるときにいたりて、つるぎのは
- ④ すこしきかけぬ。さいてみそなはせばすなはちつるぎ。を
- ⑤ のなかにあり。これをくさなぎのつるぎとなづく。これは
- ⑥ いま、をはりのくにのあゆちのむらにます、すなはちあつた
- ⑦ のはふりつかさどりますかみこれなり。そのをろちを
- ⑧ きりしつるぎをば、なづけてをろちのあらまさといふ。これ
 〔六十裏〕
- ① はいま、いそのかんのみやにます。こののちに、いなだのみや
- ② ぬしすさのやつみゝがうめるこ、まかみふるくしいなだひ
- ③ めをもて、いづものくにひのかはかみにうつしすゑてひたす。し
- ④ かうしてのちにそさのをのみこと、もてみめとし玉ひて、うま
- ⑤ せたまへるみこのむつよのみまご、これをおほあなむちの
- ⑥ みことゝまうす。「大^{たい}己^き貴^き 此云^こ於^お／＼褒^ほ姍^あ武^ぶ智^ち」
- ⑦ あるふみにはいく、そさのをのみこと、くしいなだひめをめさん
- ⑧ としてこひ玉ふ。あしなづち、てなづちこたへてまうさく。こふ
 〔六十一表〕
- ① まづかのをろちをころし玉ひて、しかうしてのちにめさばよ

- ② けん。かのをろち、かしらごとにおのくいはほまつあり、ふたつの
 - ③ かたはらにやまあり、はなはだかしこし、まさにいかにしてかころ
 - ④ し玉はん。そさのをのみこと、すなはちはからひて、あしき
 - ⑤ さげをかんでもてのましむ。をろちゑひてねふる。そさのを
 - ⑥ のみこと、すなはちをろちのからさびのつるぎをもて、かし
 - ⑦ らをきり、はらをきる、そのをきり玉ふときに。つるぎ
 - ⑧ のは、すこしきかけぬ。かれ。をきりてみそなはするに、す
- 〈六十一裏〉

- ① なはちことにひとつのつるぎあり。なづけてくさなぎの
 - ② つるぎとす、このつるぎは、むかしそさのをのみことののみも
 - ③ とにあり、いまをはりのくにあり。そのそさのをのみこと、
 - ④ をろちをきり玉へるつるぎは、いまきびのかんどものを
 - ⑤ のところにあり。いづものひのかはかみやまこれなり。
 - ⑥ あるふみにいはく、そさのをのみことのしわざ。あじきなし。
 - ⑦ かれもろくのかみたちおふるにちくらおきどをもてし。
 - ⑧ つひにやらふ。このときにそさのをのみこと、そのこいだ
- 〈六十二表〉
- ① けるのかみをひきゐて、しらすのくにくだりまして、そしも
 - ② りのところにましめて、すなはちことあげしての玉はく。この
 - ③ くに、はあれをらまほせじとの玉ひて、つひにはにつちをも
 - ④ てふねをつくり、のりてひんがしにわたり、いづものくにひの
 - ⑤ かはかみにある、とりかんのだけにいたり玉ふ。ときにそこ
 - ⑥ に、ひとをのむをろちあり。そさのをのみこと、すなはち
 - ⑦ あまのはへきりのつるぎをもて、かのをろちをきり玉ふ、
 - ⑧ ときにをろちのをきりてはかけぬ。すなはちさきて
- 〈六十二裏〉

- ① みそなはすれば、をのなかにひとつのあやしきつるぎあり。
 - ② そさのをのみことの玉はく。これもてあがわたくしにもち
 - ③ ふべからずとの玉ひて、すなはちいつよのみまごあまのふき
 - ④ ねのかみをまたして、あめにたてまつりあぐ。これいまいは
 - ⑤ ゆる、くさなぎのつるぎなり。はじめいだけるのかみあ
 - ⑥ まくだりますときに、さはにこだねをもてくだる、しかれ
 - ⑦ どもからくにうゑず。ことくにもてもちかへりて、つひ
 - ⑧ につくしよりはじめて、すべておほやしまのくにのうち
- 〈六十三表〉

- ① に、まきおふしてあをやまになさずといふことなし。このゆ
 - ② ゑに、いだけるのみことをなづけて、いさをしのかみと
 - ③ す。すなはちきのくにましますおほんがみこれなり。
 - ④ あるふみにいはく、そさのをのみことのたまはく。からくに
 - ⑤ のしまは、これがねしろかねあり。たとひあがこのしらす
 - ⑥ るくに、うくたからあらずは、よからじとの玉ひて。すな
 - ⑦ はちひげをぬきあがつ、すなはちすぎのきになる、ま
 - ⑧ たむねのけをぬきあがつ、これひのきになる、かくれの
- 〈六十三裏〉
- ① けはこれまきになる。まゆのけはこれくすになる。すで
 - ② にしてそのもちふべきをさだむ。すなはちことあげしての
 - ③ 玉はく。すぎのき。をよびくす、このふたつのきはもてうく
 - ④ たからとすべし。ひのきはもてみづのみやをつくるき
 - ⑤ とすべし、まきはもてうつきあをひとくさの、おきつ
 - ⑥ すだへにもちふさんそなへになすべし。そのくらふべき
 - ⑦ やそこだね、みなよくほどこしう。ときにそさのをの
 - ⑧ みことのみこを、なづけていだけるのみこととまう

〈六十四表〉

- ① す。いろとおほやつひめのみこと、つぎにつまつひめの
- ② みこと、すべてこのみはしらのかみ、またよくこだねをまき
- ③ ほどこす、すなはちきのくにゝわたしまつる。しかうしての
- ④ ちにそきのをのみこと、くまなりのだけにましゝて、
- ⑤ つひにねのくにゝいりましき。「棄尸」此云ニ須多ノ杯ニ被。此云ニ麻紀ニ
- ⑥ あるふみにいはく、おほくにぬしのかみ、またのなはおほも
- ⑦ のぬしのかみ、またはくにづくりおほあなむちのみこと
- ⑧ とまうす、またはあしはらのしこをとまうす、またはやち

〈六十四裏〉

- ① ほこのかみとまうす、またはおほくにだまのかみとまうす、
 - ② またはうつしくにだまのかみとまうす、そのこすべてもゝ
 - ③ はしらあまりやそはしらあまりひとはしらのかみす。
 - ④ かのおほあなむちのみこと、すくなひこなのみことゝ、
 - ⑤ ちからをあはせ、こゝろをひとつにして、あめのしたを
 - ⑥ つくる。またうつしきあをひとくき、およびけものた
 - ⑦ めに、すなはちそのやまひをゝさむるまさをさだむ。
 - ⑧ また、とり、けだもの、はふむしのわざはひをはらはんため
- 〈六十五表〉
- ① に、すなはちそのまじなひやむるのりをさだむ。こゝをもて
 - ② おほんたから、いまにいたるまで、ことゝくみたまのふゆ
 - ③ をかうふる。むかしおほあなむちのみこと、すくなひこな
 - ④ みことにかたりての玉はく。われらがつくるくに、あによく
 - ⑤ なせりといへらんや。すくなひこなのみことこたへての玉はく、
 - ⑥ あるはなせるころもあり。あるはならざるところもあり、
 - ⑦ このものがたりごと、けだしふかきむねあらん。そのゝち

- ⑧ すくなひこなのみこと、ゆいてくまのゝみさきにいたり

〈六十五裏〉

- ① て、つひにとこよのくにゝいでましぬ。またいはく、あはのし
 - ② まにいたりて、あはがらにのほりしかば、すなはちはちかれ
 - ③ わたりまして、とこよのくにゝいたりましき。これよりのち、く
 - ④ にのなかに、いまだならざるところをば、おほあなむちの
 - ⑤ かみ、ひとりよくめぐりつくる。つひにいづものくにゝいたり
 - ⑥ て、すなはちことあげしての玉はく。かのあしはらのなかつ
 - ⑦ くに、もとよりあらびたり。いは、くき、きにいたるまで、
 - ⑧ ことゝくよくあじかる、しかれども、あれすでにくだき
- 〈六十六表〉
- ① ふせて、まつろはずといふことなし。つひによてのたまはく、
 - ② いまこのくにをゝさむるは、たゞあれひとりのみなり、そ
 - ③ れあれとゝもに、あめのしたをゝさむべきものけだしあり
 - ④ や。ときにあやしきひかりうなばらをてらし、たちま
 - ⑤ ちにうかひきたるものあり、いはく。もしあれあらずは、い
 - ⑥ ましいかんどよくこのくにをむけんや、あれあるにより
 - ⑦ て。かれいましそのおほよそのいたはりをたつことをえ
 - ⑧ たり。このときにおほあなむちのかみとふての玉はく、しか
- 〈六十六裏〉
- ① らばいましはこれたれぞや。こたへての玉はく、あれはこれ
 - ② いましがさきみたま、くしみたまなり。おほあなむちのかみ
 - ③ の玉はく、しかりすなはちしんぬ、いましはこれあがさき
 - ④ みたまくしみたまなり、いまいづこにかすまんとおもふ
 - ⑤ や。こたへての玉はく、あれやまとのくにのみもろのやま
 - ⑥ にすまんとおもふ。かれすなはちみやをかしこにつくりて、

- ⑦ ゆいてましまさしむ。これおほみわのかみなり。このかみ
- ⑧ のみこ、すなはちかものきみら、おほみわのきみら、またひ
 六十七表
- ① めたゝらいすゞひめのみことなり。またいはくことしろ
- ② ぬしのかみ、やひろのわにゝなり、みしまのみぞくひひめ。
- ③ あるにいふたまくしひめにかよひ玉ふ。しかうしてみこ。ひめ
- ④ たゝらいすゞひめのみことをうむ。これをかんやまとい
- ⑤ はれひこほゝでみすべらみことのきさきとなす
- ⑥ はじめおほあなむちのかみのくにむけしときに、い
- ⑦ づものくにのいさゝのをばまにゆきましてみをし
- ⑧ せんとす。このときにわだのうへにたちまちにひと
 六十七裏
- ① のこゑあり。すなはちおどろいてもとむるに、ふつにみ
- ② ゆるところなし。しばらくありて、ひとりのをくなあり。か
- ③ がみのはをもてふねにつくり、さゝぎのはをもてころも
- ④ とし、しほのまにくもてうかひいたる。おほあなむちのか
- ⑤ みすなはちとりて、たなうらにおいて、もてあそび玉ひ
- ⑥ しかば、すなはちをどりてそのつらをくふ。すなはちその
- ⑦ かたちをあやしみて、つかひをまたしてあめのかみにまう
- ⑧ す。ときにたかみむすびのみこと。きこしめしての玉
 六十八表
- ① はく。あがうめるこ、すべてちはしらあまりいほはしら
- ② あり。そのなかに、ひとりのこいとつらくして、をしへごとに
- ③ したがはず、たままたよりくきおちにしかば、かならず
- ④ かねならん、むべめぐんでひたせ。これすなはちすくな
- ⑤ ひこなのみことこれなり。「頸けん此云を于都斯うつしと一踏鞴たうはは／此云を多多羅たたら一

幸魂かうこん此を⑥ 「云を佐積彌多摩さきよみたま一奇魂きこん此云を俱ぐ斯美枹磨しみはら一鶴鶴つるつる此云を紗婆岐ささき一

⑦

⑧ やまとふみまきのついでひとつ

(平成五年十月六日受理)

A Study of *Kyohoban-Kanajindaiki* I

— Introduction and Reprint (1) —

Katsumi SUGIURA

ABSTRACT

Kyohoban-Kanajindaiki is a printed text of the first two books of the *Nihonshoki* published in 1719. This text is translated from Chinese into Japanese and written in Japanese *Kana* characters.

A number of other texts translated from Chinese into Japanese are known and studied. For instance, *Kanagaki-Rongo* was translated from *the Analects of Confucius*, and *Kanagaki-Hokekyo* from the *Hokekyo*, a Buddhist scripture.

These texts are important in explaining the transition of Japanese readings in Chinese texts. But, here to fore there have been few studies relating to the *Nihonshoki*.

This study consists of a introduction to the *Kyohoban-Kanajindaiki*, and a reprint of its first book.